

夏休み体験学習
プログラム

子ども アドベンチャー カレッジ 2023

開催日

8.16_水・17_木

会場

横浜市内各所

横浜市教育委員会

実施報告書

目 次

I	子どもアドベンチャーカレッジとは	1
II	子どもアドベンチャーカレッジ 2023 開催実績	
1	プログラム実施者（企業・団体等）の募集	2
2	学生サポーターの募集	2
3	プログラム参加者（児童）の募集	2
4	広報用チラシ（表面）	3
5	広報用チラシ（裏面、プログラム一覧）	4
III	子どもアドベンチャーカレッジ 2023 アンケート結果	
1	参加者向けアンケート	5
2	企業・団体等向けアンケート	7
3	学生サポーター向けアンケート	9
IV	プログラム実施報告書（まとめ）	
	<u>青葉区</u>	
1	消防隊員になってみよう！【横浜市青葉消防署】	11
2	リユースって何？クルマのパーツを生き返らせて商品にしよう！ 【株式会社アップガレージグループ】	13
	<u>旭 区</u>	
3	地面の下の大迷宮 江戸時代から続く日本の下水道 【管清工業株式会社（横浜市中大口径包括 JV）】	15
	<u>泉 区</u>	
4	ドキドキ消防救急体験【横浜市泉消防署】	17
	<u>磯子区</u>	
5	「科学」ってなんだ？【はまぎん こども宇宙科学館】	19
6	病院のお仕事体験ツアー【横浜市立脳卒中・神経脊椎センター】	21
7	「まいぎり」を使って火起こしを体験しよう！【横浜市三殿台考古館】	23
	<u>神奈川区</u>	
8	動物愛護センターのお仕事を学ぼう！【横浜市医療局動物愛護センター】	25
	<u>金沢区</u>	

9	元気のヒミツの探し方 ～大事なサインを見つけよう～ 【横浜市立大学医学部看護学科】	27
10	不用になった素材で工作しよう！アップサイクル体験！【武松商事株式会社】	29
11	みんなが捨てたごみはどこへ行くのかな？【横浜市資源循環局金沢工場】	31
港北区		
12	世の中を便利にするコンピュータのお仕事を学ぼう！ 【株式会社タスクフォース】	33
栄区		
13	見て、触って、乗って、車のエネルギーを体感しよう！ 【株式会社タツノ（横浜工場）】	35
都筑区		
14	学芸員と一緒に博物館の裏側を体験しよう！【横浜市歴史博物館】	37
15	ごみ焼却工場のお仕事を体験しよう！【横浜市資源循環局都筑工場】	39
戸塚区		
16	石の鑑定会 一皆さんの持っている石が何か一緒に勉強しましょう。 【神奈川鉱物研究会】	41
17	子ども薬剤師体験セミナー【横浜薬科大学】	43
18	この夏「なぜ？」に挑む！『子どものための哲学カフェ』【アートの時間】	45
19	「地域に残る伝説」を腹話術で語り伝えよう 【とつかコラボ倶楽部きずな腹話術】	47
中区		
20	アナウンサーと学ぶ！伝わる朗読【大佛次郎記念館】	49
21	学芸員のお仕事体験をしてみよう！【横浜人形の家】	51
22	重ねて発見！ダンボールで横浜のジオラマを作ろう 【一般社団法人防災ジオラマ推進ネットワーク】	53
23	議事堂探検！議員を体験！【横浜市議会事務局政策調査課】	55
24	キッズ・マネースクール【横浜信用金庫】	57
25	建設のお仕事を体験してみよう！ 【一般社団法人横浜建設業協会／横浜建設業青年会】	59
26	子どもアドベンチャーカレッジ2023～お金のおもさを感じよう！～ 【株式会社神奈川銀行】	61
27	最高をめざせ！ペーパータワーチャレンジ！ 【公益財団法人横浜市建築保全公社】	63
28	「情報の森」冒険の心得を取材し、新聞にしよう！ 【ニュースパーク（日本新聞博物館）】	65

29	食の多様化について。ホテルシェフと一緒に調理&試食を楽しもう 【一般社団法人全日本司厨士協会関東総合地方本部 神奈川県本部】	67
30	スポーツチームのお仕事を体験してみよう！ 【横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課（協力：横浜 DeNA ベイスターズ、Y.S.C.C.、横浜 FC、横浜 F・マリノス、横浜エクセレンス、横浜キヤノンイーグルス）】	69
31	税金を知ろう！～税金謎解きゲーム～【横浜市租税教育推進協議会】	71
32	脱炭素社会実現に役立つバイオマス発電所の仕組みを学ぼう！ 【三菱重工パワーインダストリー株式会社】	73
33	地名からまちを探ろう！-もし地震や火災が起きたらどうする？- 【横浜市都市整備局防災まちづくり推進課】	75
34	夏休み子ども貿易教室【公益社団法人 横浜貿易協会】	77
35	まち探検へレッツゴー！～自分だけのガイドマップをつくろう～ 【横浜市都市整備局景観調整課】	79
36	横浜市の友好交流自治体 道志村と昭和村を体験だ！ 【横浜市政策局広域行政課 横浜市水道局広報課 山梨県道志村 群馬県昭和村】	81
西 区		
37	コールセンターお仕事体験！もしも自動車事故がおきたら？ 【あいおいニッセイ同和損害保険株式会社】	83
38	「つかう」ことで森林を守ろう！ 【横浜市国際局国際協力課 国際熱帯木材機関（ITTO）】	85
保土ヶ谷区		
39	横浜のみどりを守る！生きものレンジャーになろう 【横浜市環境創造局環境活動支援センター】	87
緑 区		
40	看護やリハビリのお仕事を体験してみよう！【昭和大学保健医療学部】	89
41	SDGs を通じて NPO のお仕事を理解しよう！ 【特定非営利活動法人まちづくりエージェント SIDE BEACH CITY.】	91
泉区、港南区、栄区、戸塚区		
42	めざせ！お箸マイスター 箸を作って、使って、考えよう。 【NPO 法人 みんなのお箸プロジェクト】	93

V 参考資料

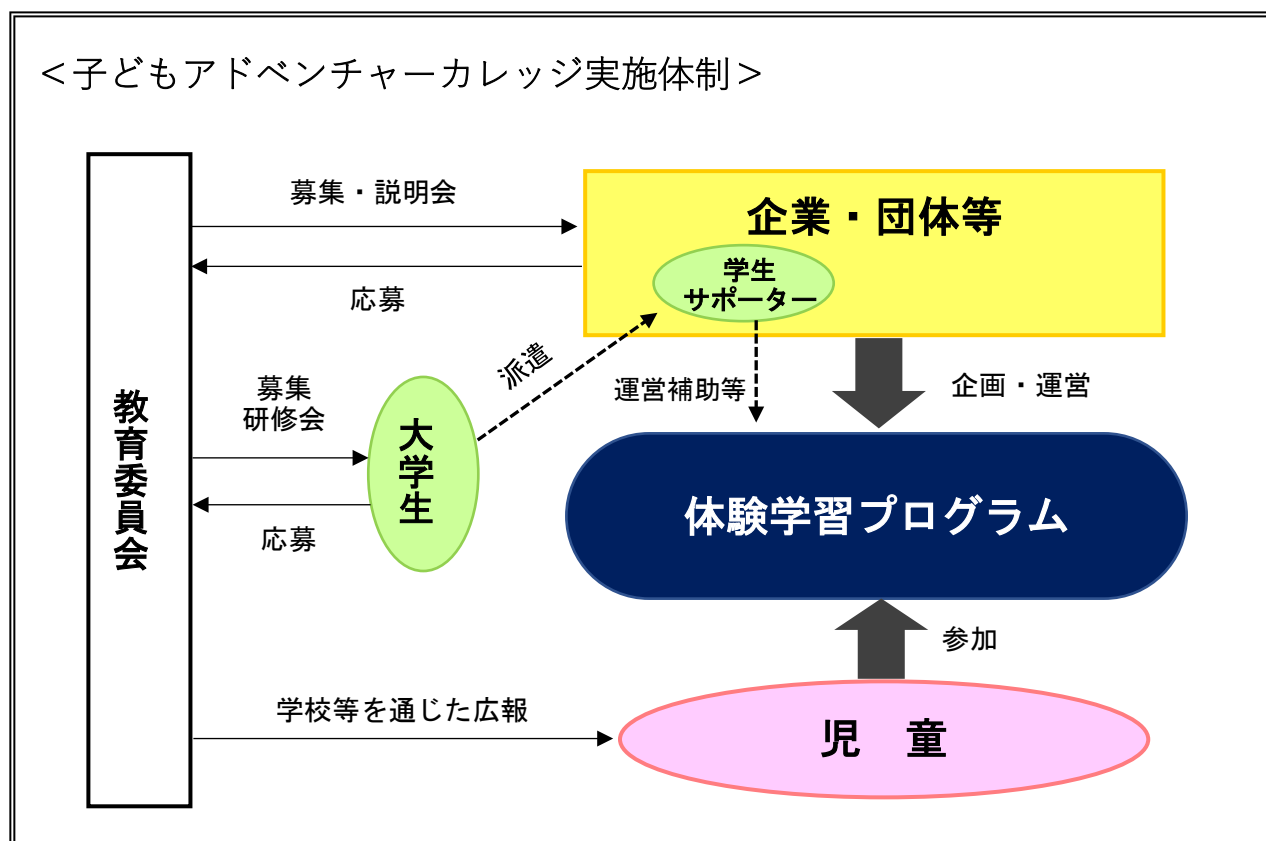
プログラム一覧（詳細）	95
-------------	----

I 子どもアドベンチャーカレッジとは

市内の小学生を対象に、「主体的・対話的で深い学びのきっかけづくり」と「社会参加のきっかけづくり」の場と機会を提供するため、夏休み期間を活用し、民間企業や団体、大学、公的機関（以下、企業・団体等）などの協力を得て、多様な体験学習プログラムを実施します。

また、一部のプログラムでは、横浜市が公募する「学生サポーター」を運営補助役として配置することで、市民活動の新たな担い手として期待される若者の人材育成を図ります。

<子どもアドベンチャーカレッジ実施体制>



～ 体験学習プログラムのポイント ～

主体的・対話的で深い学びのきっかけとするため、次の要素を各プログラムに盛り込んでいます。

- ◆ 子どもたちの**学ぶ意欲を高めるための講話**を実施
(学校で学んだことや体験したことが、現在の仕事や活動にどう生かされているか等)
- ◆ 子どもたちが対話を通じて主体性を高められるよう、**グループディスカッション**や、体験を通じた気づきや感想を共有する**振り返り会**など、**子どもたちの発言の機会**を確保



振り返り会の様子

II 子どもアドベンチャーカレッジ 2023 開催実績

- 【開催日】 令和5年8月16日（水）、17日（木）
【主催】 横浜市教育委員会
（事務局：横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課）
【対象者】 市内在住または在学の小学3～6年生
【実施場所】 市内各所
【参加方法】 事前申込制（応募者多数の場合抽選）
【参加費】 原則無料（一部プログラムでは、材料費等の実費負担あり）
【プログラム数】 42プログラム（企業・団体20、外郭団体8、市役所14）
【参加児童数】 1,458名 【学生サポーター】 17名

※プログラムにより、日時・場所・対象学年・定員が異なります。
各プログラムの詳細は、95ページ「プログラム一覧（詳細）」を参照ください。

1 プログラム実施者（企業・団体等）の募集

- 【募集期間】 令和5年2月24日（金）～令和5年3月24日（金）
【説明会】 令和5年5月30日（火）（オンライン開催）

2 学生サポーターの募集

- 【募集期間】 令和5年4月24日（月）～令和5年5月31日（水）
【説明会】 令和5年5月23日（火）（オンライン開催）
【活動内容】 ① 学生サポーター研修会（令和5年6月14日（水））
・企業・団体等と調整を行う上で必要な知識やビジネスマナーの学習
・先輩サポーターの体験談
② 企業・団体等との事前個別打合せ
③ プログラムの運営補助（当日）
会場誘導、受付、グループディスカッション・振り返り会の進行等
④ 学生サポーター振り返り会（令和5年8月23日（水））
学生サポーターによる自主企画（任意参加）

3 プログラム参加者（児童）の募集

- 【募集期間】 令和5年6月20日（火）～令和5年7月20日（木）
【周知方法】 ① 横浜市立小学校3～6年生（約12万人）に対して、学校を通じて
広報用チラシ（3～4ページ）を配布
② 横浜市ウェブサイト、教育委員会 X（旧 Twitter）での情報発信
【申込者数】 6,721人
【当選者数】 1,859人

夏休み体験学習
プログラム

子ども アドベンチャー カレッジ 2023

参加者
大募集!

開催日 **8.16** 水・**17** 木

会場 **横浜市内各所**
※詳細はウェブサイトをご覧ください

横浜市教育委員会と民間企業や団体、大学、公的機関などが
連携して、多様な体験学習プログラムを実施します。

対象 市内在住または在学の小学3～6年生

申込期限 令和5年 7月20日(木) 17時まで

詳細は横浜市ウェブサイトをご覧ください。

横浜 子どもアドベンチャーカレッジ **検索**

※一部プログラムでは、材料費や入場料等が必要な場合があります。
※感染症や気象状況等により、内容変更や中止となる場合があります。

お問い合わせ
横浜市教育委員会事務局 生涯学習文化財課
TEL: 671-3282
E-mail: ky-adventure@city.yokohama.jp

※プログラム内容については、
各プログラムの実施団体にお問い合わせください。
※プログラム以外のイベント全般については、
横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課へ。

5 広報用チラシ（裏面、プログラム一覧）

プログラム一覧

会場(区)	プログラム	企業・団体名	会場(区)	プログラム	企業・団体名
1 青葉	しょうぼうたいいん 消防隊員になってみよう!	横浜市青葉消防署	23 中	ぎじどうたんけん ぎいん たいけん 臨事堂探検! 議員を体験!	横浜市会議会局 政策調査課
2 青葉	なに リユースって何? クルマのパーツを生き返らせて商品にしよう!	株式会社 アップガレージグループ	24 中	キッズ・マネースクール	横浜信用金庫
3 旭	じめん した たいいせき 地面の下の大迷宮 えど時代から続く日本の下水道	管清工業株式会社 (横浜市中大口徑包括)IV	25 中	けんせつ しごと たいけん 建設のお仕事を体験 してみよう!	一般社団法人横浜建設業協会/ 横浜建設業青年会
4 泉	しょうぼうきゆうきゆうたいいん ドキドキ消防救急体験	横浜市泉消防署	26 中	こ 子どもアドベンチャーカレッジ2023 かね ～お金のおもさを履きましょう!～	株式会社神奈川銀行
5 磯子	かがく 「科学」ってなんだ?	はまぎん こども宇宙科学館	27 中	さいこう 最高をめざせ! ペーパータワーチャレンジ!	公益財団法人 横浜市建築保全公社
6 磯子	びょういん しごと たいけん 病院のお仕事体験ツアー	横浜市立脳卒中・ 神経脊髄センター	28 中	じょうほう もり ぼうけんこうろくえい しやざい 「情報の森」冒険の心臓を取付し、 新聞にしよう!	ニュースパーク (日本新聞博物館)
7 磯子	つか 「まいぎり」を使って ひお たいけん 火起こしを体験しよう!	横浜市三殿台考古館	29 中	しょくたようか 食の多様化について、 いっしょにようりしよくたの ホテルシェフと一緒に調理&試食を楽しもう	一般社団法人全日本司厨士協会 関東総合地方本部 神奈川県本部
8 神奈川	どうぶつあいで 動物園センターの しごと まな お仕事を学ぼう!	横浜市医療局 動物愛護センター	30 中	しごと スポーツチームのお仕事を たいけん 体験してみよう!	横浜市内にぎわいスポーツ文化局 スポーツ課 地方部DANAバイスターズ、V.S.C.C. 横浜FC、横浜F・マリノス、横浜エクセレンス、 横浜F・CユナイテッドFC
9 金沢	げんき さが かつ 元気のヒミツの探し方 だいじ ～大事なサインを見つけよう～	横浜市立大学 医学部看護学科	31 中	ぜいざん し ぜいざんなど 税金を知ろう!～税金謎解きゲーム～	横浜市租税教育推進協議会
10 金沢	ふよう そざい こうさく 不用になった素材で工作しよう! アップサイクル体験!	武松商事株式会社	32 中	だつたんそしゃかいじつげん わぐ 脱炭素社会実現に役立つ はつでんしよ しく まな バイオマス発電所の仕組みを学ぼう!	三菱重工パワー インダストリー株式会社
11 金沢	みんなが捨てたごみは どこへ行くのかな?	横浜市資源循環局 金沢工場	33 中	ちめい 地名からまちを探ろう! じしん かせい お -もし地震や火災が起きたらどうする?-	横浜市都市整備局 防災まちづくり推進課
12 港北	よ なか べんり 世の中を便利にするコンピュータ しごと まな のお仕事を学ぼう!	株式会社 タスクフォース	34 中	なつやす こ ぼうえききょうしつ 夏休み子ども貿易教室	公益社団法人 横浜貿易協会
13 栄	み かわ 見て、触って、乗って、 くるま たいかん 車のエネルギーを体感しよう!	株式会社 タツノ (横浜工場)	35 中	たんけん まち探検レッツゴー! じぶん ～自分だけのガイドマップをつくろう～	横浜市都市整備局 景観調整課
14 都筑	がくげいん いっしょ ぼくぶつかん 学芸員と一緒に博物館の うらがわ たいけん 裏側を体験しよう!	横浜市歴史博物館	36 中	よこはま しょくこうこうりゆうじちたい 横浜市の友好交流自治体 どうしむらしようむらたいけん 道志村と昭和村を体験だ!	横浜市政策局広域行政課 横浜市水運局広報課 山梨県道志村 群馬県昭和村
15 都筑	しょうきやくこうじょう ごみ焼却工場の しごと たいけん お仕事を体験しよう!	横浜市資源循環局 都筑工場	37 西	しごと たいけん コールセンターお仕事を体験! じどうしゃじこ もしも自動車事故がおきたら?	あいおいニッセイ同和 損害保険株式会社
16 戸塚	いし かんてい かな 石の鑑定会 - 皆さんの持っている いし かに いっしょ べんきょう 石が何か一緒に勉強しましょう。	神奈川県鉱物研究会	38 西	しんりん まも 「つかう」ことで森林を守ろう!	横浜市国際園国際協力課 国際園常緑木材機関 (ITTO)
17 戸塚	こ かくざい たいけん 子ども薬剤師体験セミナー	横浜薬科大学	39 保土 ヶ谷	よこはま 横浜のみどりを守る! いきものレンジャーになろう	横浜市環境創造局 環境活動支援センター
18 戸塚	なつ この夏「なぜ?」に挑む! こ てんがく 『子どものための哲学カフェ』	アートの時間	40 緑	かんご 看護やリハビリのお仕事を たいけん 体験してみよう!	昭和大学保健医療学部
19 戸塚	ちいさ のこ でんせつ 「地域に残る伝説」を ふくわじゅう かつ たつ 廣播術で語り伝えよう	とつかコラボ倶楽部 きずな廣播術	41 緑	SDGsを運じて しごと わかい NPOのお仕事を理解しよう!	特定非営利活動法人 まちづくりエージェンツ SIDE BEACH CITY.
20 中	まな つた ろうどく アナウンサーと学ぶ! 伝わる朗読	大佛次郎記念館	42 泉、港南 栄、戸塚	めざせ! お警マイスター はし つく つか かんが 署を作って、使って、考えよう。	NPO法人 みんなのお警プロジェクト
21 中	がくげいん しごと たいけん 学芸員のお仕事体験を してみよう!	横浜人形の家	★ ふ かせい かい 振り返り会やグループワークで、 たいけん かんそう いけん き 体験の感想や意見を聴かせてね! ★		
22 中	かき ほんけん 重ねて発見! - ことはま ダンボールで横浜のジオラマを作ろう	一般社団法人 防災ジオラマ推進ネットワーク			

詳細は横浜市ウェブサイトをご覧ください。

横浜 子どもアドベンチャーカレッジ

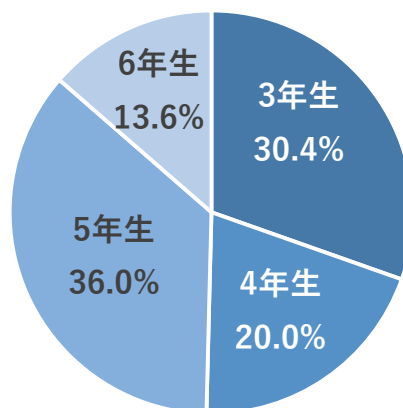
検索



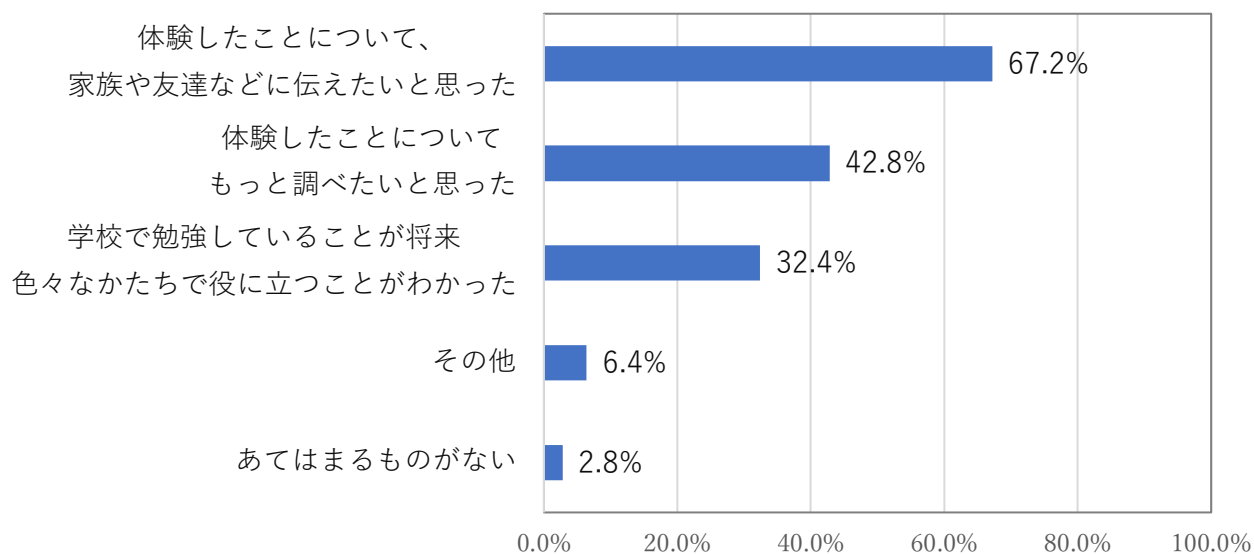
Ⅲ 子どもアドベンチャーカレッジ 2023 アンケート結果

1 参加者向けアンケート（回答数：250）

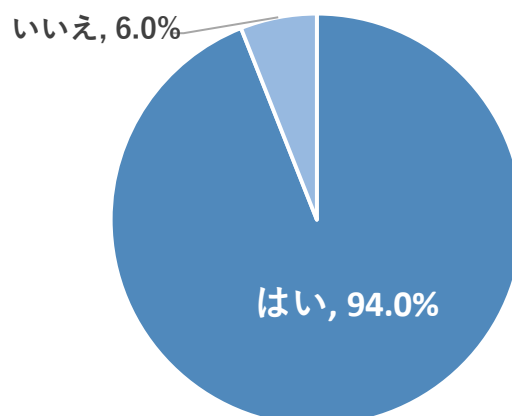
(1) 回答者の属性（学年）



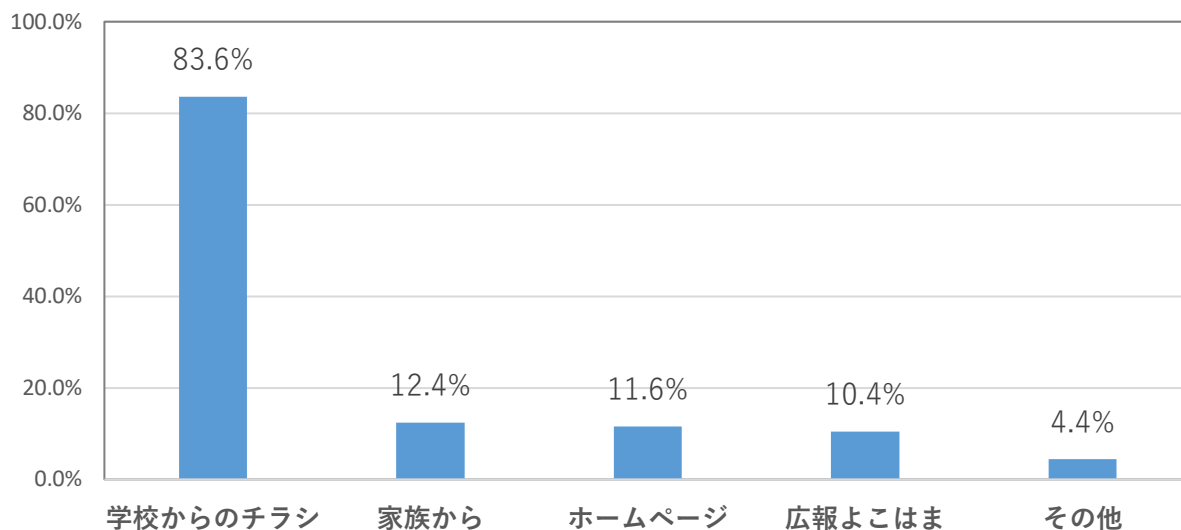
(2) 体験の感想として、あてはまるものを選んでください。（複数選択可）



(3) 来年も参加したいですか。



(4) 子どもアドベンチャーカレッジのことを、どのように知りましたか。(複数選択可)

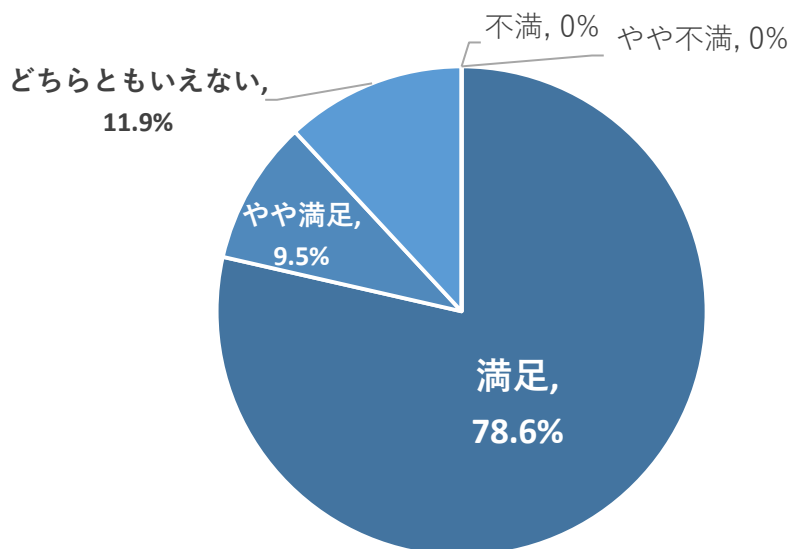


(5) 自由意見 (抜粋)

- ・実際に触ったり体験することができてとても良かった。最後に発表もあって、みんなの意見が聞けてよかった。自由研究にしたい。
- ・初めての人と会話をしたり、発表が出来たりして良かった。
- ・質問に分かりやすく、穏やかに説明してくれた。自分から質問がしやすい環境だった。
- ・開催日程を増やしてほしい。
- ・定員を増やして当たりやすくしてほしい。
- ・子どもだけでなく親にとっても勉強になるプログラムだった。一方的に説明を聞くだけでなく、様々な体験ができるよう内容も工夫されていると思った。
- ・子どものうちに様々な職種を理解したり、体験したりできると、将来の夢を選ぶ選択肢が増えると思うし、環境や世界のことを考える良い機会になると思う。
- ・地域社会や子どもたちへのボランティア精神あふれる参加企業の取り組みを、素晴らしいと思った。
- ・振り返り会の発表は、児童にとって良い経験になると思った。

2 企業・団体等向けアンケート（回答数：42）

(1) 参加児童の発言の機会（振り返り会等）を設けたことの満足度

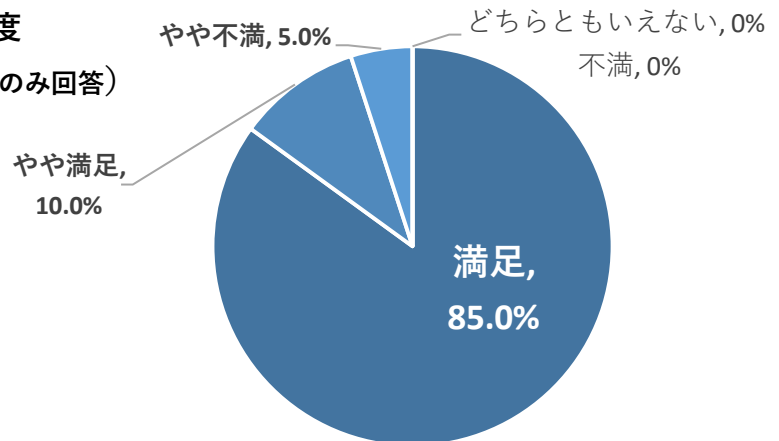


【回答理由（自由記述、抜粋）】

- ・ 児童の考えや感想を直接聞くことができ、一方的に説明するよりもお互いの理解度が増し、活発な意見交換をすることができたから。
- ・ 初めて会った児童同士がうまく話し合えるか不安だったが、学年の違う児童が同じ課題について話し合い、解決していくことができたから。
- ・ 人前で発言するということで、緊張感もあり、学んだ内容を発言することでより深く理解できたのではないかと思う。
- ・ 「本当に楽しんでくれているのか？理解してくれているのか？」と疑問に思うような態度や素振りをしていた子供が、実は立派な意見を持っているということが驚きで、それは発言の機会を設けたからこそ分かった。
- ・ 学生サポーターが話しやすい雰囲気を作り、児童が積極的に発言できたとても良い振り返りの会だったから。
- ・ 学生サポーターにとっても、年下の子どもたちとのコミュニケーションや、大勢の前で話すなど、内面的成長に役立つと思うから。
- ・ 時間が短い中で、振り返り会を開催するのが難しいところがあった。
- ・ 初めての参加で、子供たちの積極性が違い上手く引き出せなかった。次回参加する際は、出来るだけ積極的に発言してもらいたい。

(2) 学生サポーター受入れの満足度

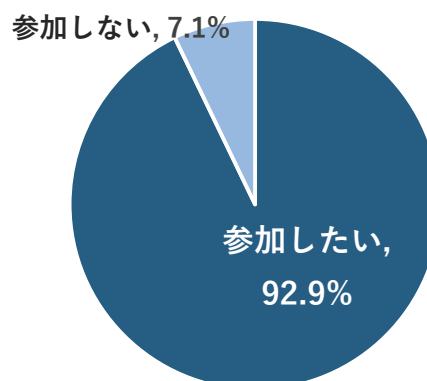
(学生サポーター受入れ企業・団体等のみ回答)



【回答理由（自由記述、抜粋）】

- ・ 率先して作業の手伝いに関わってくれ、振り返り会もしっかり準備してくれた。
- ・ 全体的にとっても意欲的な活動をしていたように見て取れたし、児童に合わせた対応や言葉遣いなど、こちらの指示以上に意識して行うなど、相手の立場に立った話し方などを工夫して行っていたから。
- ・ 職員と一緒に活動してもらったが職員に遠慮して一歩引いていたかもしれない。

(3) 次回の参加意向

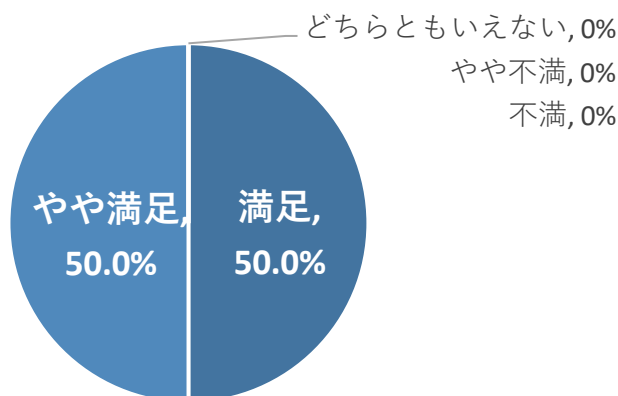


【回答理由（自由記述、抜粋）】

- ・ 子どもアドベンチャーカレッジへの参加を通じて、通常業務とは離れ、全部署が何らかに関わり、取り組めたことは良かったから。
- ・ 児童に仕事の理解を深めてもらう機会にもなるし、自社の社員教育の場、対外的な会社PRにもなるから。
- ・ 将来を担う子どもたちに、建築の仕事と魅力を知ってもらう絶好の機会だから。
- ・ 参加児童の反応などから、誰に、どうやって伝えるかを意識することの大切さを改めて感じることができ、業務を見直すよい機会となったから。
- ・ 小学生に対して独自に講座を実施するのは難しいため、子どもアドベンチャーカレッジに参加することによって、それが可能となるから。
- ・ (本事業は平日開催だが) 独自のアンケート結果では、休日開催の希望が多かった。
- ・ 屋外施設なので、時期的に熱中症の危険度が大きすぎる。

3 学生サポーター向けアンケート（回答数 14）

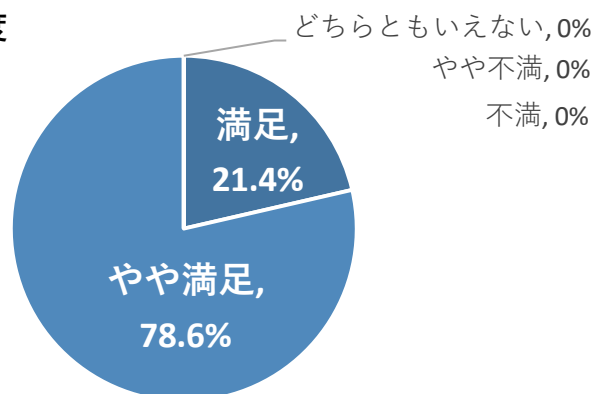
(1) 総合的な満足度



【回答理由（自由記述、抜粋）】

- ・受け入れ先の社員さんたちと行動し、適切な言葉や行動を常に気にするということが普通に生活していて無かったため、とても貴重な経験だった。
- ・就職活動にも活かせる力がつけられたと思う。
- ・振り返り会は特に企画力を試されているようで、初めは緊張したが、社員の方にも協力いただき、内容を練って成功した時の達成感は今まで感じたことがなかった。
- ・（プログラムに関わる人と）互いに意見を述べながら最善のプログラムになるように協力し合えたと感じているから。
- ・子どもたちの「楽しかった」「また参加したい」「自由研究の課題にしたい」という感想から、良いイベントにすることができたと感じた。
- ・学びが多かったが、もう少し役割に負荷があると良かった。

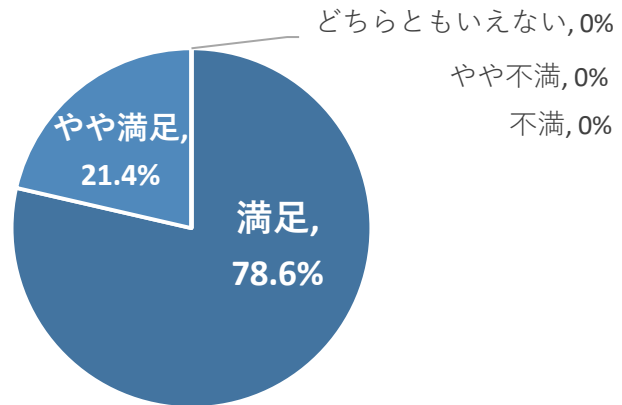
(2) 児童との交流や学びの支援に関する満足度



【回答理由（自由記述、抜粋）】

- ・子供が苦手な密に関わることを避けていたが、いざ関わってみると、とてもかわいくてもっと関わりたいと思うようになった。
- ・自分の考えた企画を「楽しかった」と言ってもらえた。
- ・時間が限られてしまっているため、子どもに深く関わるのが難しかった。
- ・子どもたちに積極的に話しかけることが出来なかった。

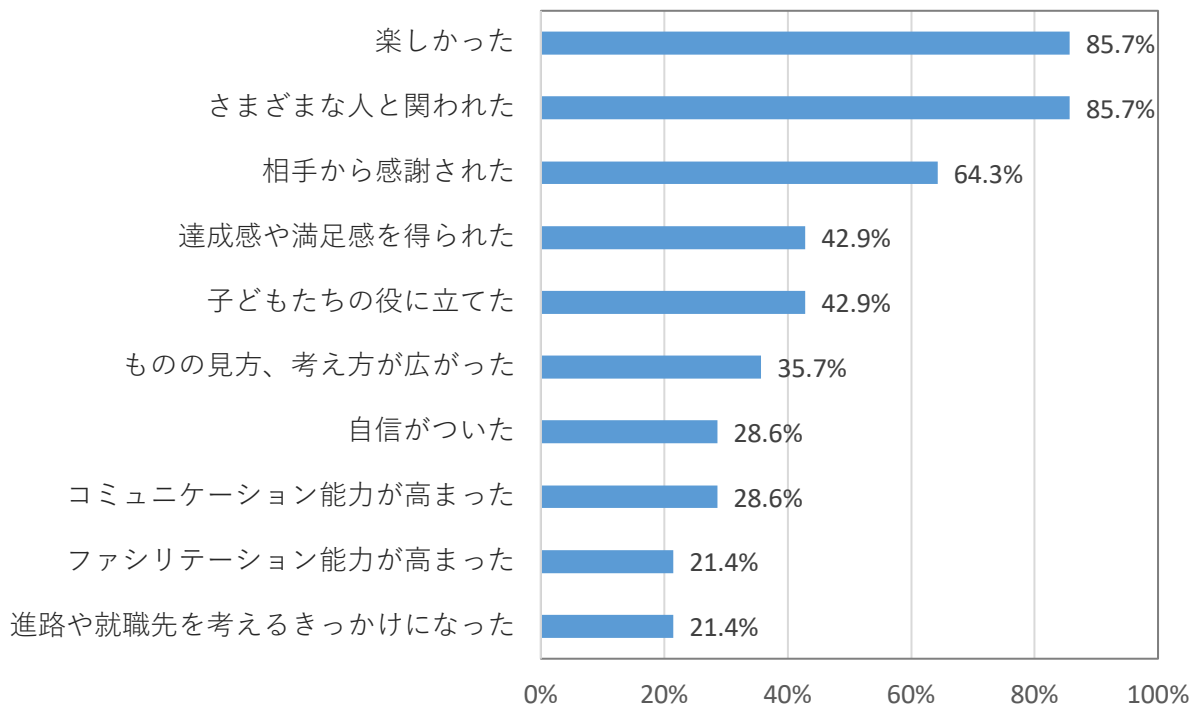
(3) 企業・団体等との関わりの満足度



【回答理由（自由記述、抜粋）】

- ・働いている人がどのように打ち合わせを行い、企画を運営し、また休憩をとっているか、裏の部分がたくさん見ることができた。
- ・プレゼンでの時間調整や質疑応答など、企業の方々のスキルに圧倒される部分が多く、どんな力を付けておいた方が良いかをよく知ることが出来た。
- ・ビジネスマナーやメール・電話のやりとりなどを再確認することができた。
- ・社会人も目前にし、私自身恐れずに責任を持って発言・提案し、行動できた。

(4) 子どもアドベンチャーカレッジに参加してよかったこと（複数選択可）



No. 1 消防隊員になってみよう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市青葉消防署
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 1回ずつ計2回実施
実施会場	青葉消防署ガレージ付近、3階会議室
参加児童数/保護者同伴数	23人/34人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	ホース延長・放水体験、救助体験、救急体験、地震体験、煙体験、はしご車搭乗体験、車両展示

★参加児童の主な感想・意見

- ・はしご車に乗れて楽しかった。
- ・地震体験がすごく楽しくて、揺れが意外に強くてびっくりした。
- ・将来、消防士になりたいと思った。
- ・放水体験で本格的な放水ができてよかった。
- ・普段できない体験ができてよかった。
- ・消防車に乗ってみたい。
- ・救急車での仕事や消防士以外の体験もしてみたい。
- ・救急隊のみなさんとの体験もしてみたい。
- ・ロープを渡る体験をやってみたい。
- ・はしごの上からホースで水をかけたり、どっちが早く丁寧に救助できるかをしてみたい。

参加児童の写真①



ホース延長・放水体験をする様子

参加児童の写真②



救助体験をする様子

参加児童の写真③



救急体験をする様子

参加児童の写真④



地震体験・はしご搭乗体験をする様子

★企業・団体等の感想・意見

- ・暑さが心配だったが、参加者が熱中症にならずにプログラムを終えられてよかった。
- ・台風の接近も心配だったが、開催できてよかった。
- ・1週間くらい前にリマインドメールをすることで、当日の欠席者を減らせたと思った。
- ・たくさんの体験をさせてあげられて、参加者には満足していただけた。
- ・大学生支援について、「要」・「不要」を選択できるとよい。
- ・消防隊員の体験ということで、屋外でのプログラムが多いため、熱中症対策として屋外での体験内容が限られてしまったり、雨により実施内容の変更を行ったことが大変だった。

企業・団体等の活動中の写真



放水体験・救助体験する様子

企業・団体等の活動中の写真



救急体験・振り返り会をする様子

No.2 リユースって何？クルマのパーツを 生き返らせて商品にしよう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	株式会社アップガレージグループ
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 1回ずつ計2回実施
実施会場	株式会社アップガレージグループ 本社3階 ミーティングルーム1,2
参加児童数/保護者同伴数	計25人/計27人
プログラム内容 ※体験したことを記載（150 字程度）	<p>①3Rクイズ 3Rやリユースショップ、アップガレージグループについてクイズ形式で説明</p> <p>②レースカー乗車体験 過去にレースで使用していたレースカーの運転席に乗ってみる体験</p> <p>③中古ホイール商品化体験 実際にお客様から買い取ったホイールを濡れた雑巾で綺麗にし、お客様に どこのチームのホイールを買い取りたいか選んでもらう体験</p>

☆3Rクイズ☆

★参加児童の主な感想・意見

- ・3Rについて学ぶことができた。今後の生活にいかしたいと思った。
- ・自分の周りにも3Rに当てはまる行動がたくさんあるということがわかった。

★3Rクイズの様子

クイズに積極的に取り組む様子



第3問

- つぎの中から中古品をすべてえらんでください
- 1.お母さんに買ってもらったから、まだ一回も乗っていない自転車
 - 2.一回だけ着て、ずっとタンスにしまっておいた服
 - 3.おこづかいで買って、まだあけてないゲームソフト
 - 4.かさいさんが使っているスマホ

第5問

- お客様から買い取ったホイールがあります。このホイールを、たくさんのお客様にほしいと思ってもらえるような商品にするには、どうすればいいでしょうか？

3Rクイズの一部

☆レースカー乗車体験☆

★参加児童の主な感想・意見

- ・レースカーはできるだけ車体を軽くしようとしていることがわかった。
- ・うしろが見えるモニターやうしろについている羽がふつうの車とちがってすごかった。

★レースカー乗車体験の様子



実際のレースで使用していた車両の運転席に乗っている様子

※3R※

- リデュース(Reduce)：ごみを出さないようにすること
- リユース(Reuse)：ごみを捨てずに何度も使用すること
- リサイクル(Recycle)：ごみを資源として再利用すること

☆中古ホイール商品化体験☆

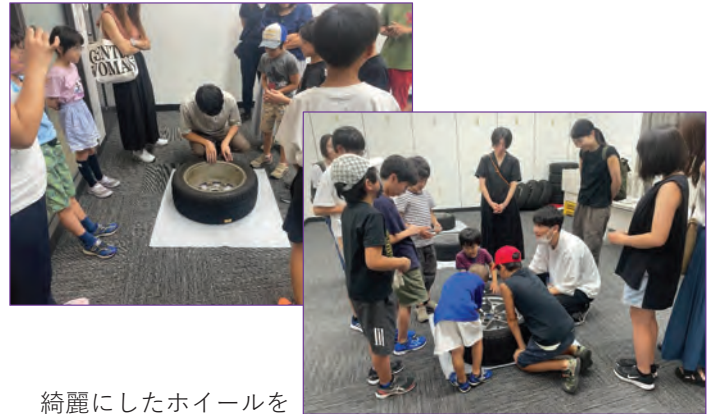
★参加児童の主な感想・意見

- ・ホイールをきれいにしてみても、リユースをするのは大変だということがわかった。
- ・中古のホイールがけっこうよごれていることにびっくりした。
- ・仲間と協力してきれいにしたホイールをお客さんに選んでもらえてうれしかった。

★中古ホイール商品化体験の様子



2人1組になって中古ホイールを綺麗にしている様子



綺麗にしたホイールを
全員で確認しながらお客様に選んでもらっている様子

★企業・団体等の感想・意見

- ・私たちが日頃ステークホルダーに対して訴え、企業として大切にしている内容を子供たちに伝えることが出来た。また、改めて私たちが社会に貢献できていることを実感できた。
- ・小学生とは思えない、素晴らしい気づきをしてくれた子どもが多かった。感想や質問を精査し、社内研修にも生かしたい。
- ・参加小学生の中には”SDGs”という単語を知っている小学生もいて驚いた。今回のように、小学生などの学生にSDGsやリユース業について伝える機会を増やすことで、環境改善につなげていきたい。
- ・小学生に3Rの大切さや、3Rは意外と自分たちの身近なものであるということを知ってもらうと同時に、付き添いの親御さんにも改めて理解してもらうことが出来た。家庭での会話の話題となって、SDGsについての考えを深めていってほしいと思った。



3Rクイズ講師の様子



乗車体験をしたレースカーの前で集合写真

No.3 地面の下の大迷宮 江戸時代から続く日本の下水道

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	管清工業株式会社（横浜市中大口径包括JV）
実施日時・回数	8月17日（木） 1回実施
実施会場	管清工業株式会社3階中ホール
参加児童数/保護者同伴数	8人/10人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道に関する授業 ・VRで下水道管の中を見る ・本物のマンホールの中を見る ・ティシュペーパーとトイレトペーパーを使った実験 ・下水道管を調べる機械の見学と操作等

★参加児童の主な感想・意見

- ・機械（調査用カメラ）の操作が楽しかった。
- ・VRが楽しかった。
- ・下水の事をもっと知りたいと思った。

参加児童の写真①



下水道に関する授業（出前授業）を聴く様子

参加児童の写真②



下水道に関する授業（出前授業）でクイズに答える様子

参加児童の写真③



実際にマンホールの中を覗いている様子

参加児童の写真④



実際にマンホールの中を覗いて説明を聞いている様子

★企業・団体等の感想・意見

- ・主催者側も貴重な経験が出来ました。
- ・いかに簡単な言葉で分かりやすい説明がとても大事だと思いました。
- ・保護者の関心度も高い様に感じました。

企業・団体等の活動中の写真①



下水道に関する授業（出前授業）をしている様子


企業・団体等の活動中の写真②



機械（下水道管の中を見るTVカメラ）の操作方法を説明をしている様子

No.4 ドキドキ消防救急体験

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市泉消防署	
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 1回ずつ計2回実施	
実施会場	横浜市消防局泉消防署	
参加児童数/保護者同伴数	35人/42人	
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<p>泉消防署で消防車、救急車をみて、そして、人を救うための道具をさわってみます。</p> <p>さらに、消防士や救急隊員の話聞いて、命の大切さと守ることの難しさを感じる時間になりました。</p>	

★参加児童の主な感想・意見

- ・救命措置を体験して、いのちの大切さを考えた。
- ・消防のホースから筒先を使って、放水を体験して、水の勢いのすごさを感じた。
- ・消防車に積んでいる道具の種類がとても多い。



消防車を見学する様子



放水する様子



★大学生インターン（総務局）からのコメント

参加された小学生の中には、消防車について、私も気づかないような視点を持って質問する子供たちもいてとても驚いた。

このような誰も気づかないようなところに目を向けられることは、消防士関係なくどのような仕事や、生活の中でも自分の視野を広げてくれると実感したので、私もそのような気づきを大切にしていきたい。



★感想・意見

<小学生年代への防火救急指導>

○消防局での小学生年代指導との関係
従前より展開してきた指導内容に加え、考えることを実践することができた。

○小学5年生を対象とした理由
低学年では、理解するのが難しい内容であることから、対象学年を絞った。

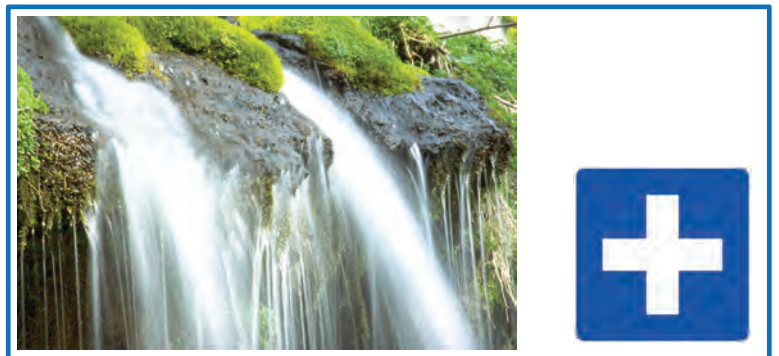
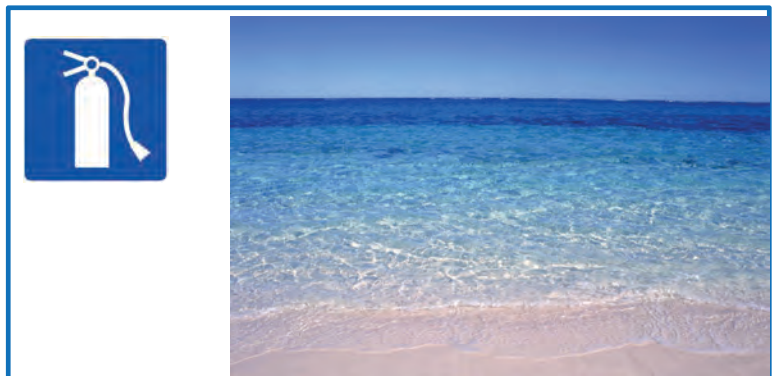
<インターン生>

○総務局と子ども青少年局によるインターン派遣調整
総務局より大学生インターン、子ども青少年局より中高生インターンの参加を調整いただいた。

○大学生インターン
理系学部3年生が、消防署業務、特に本件イベント運営にかかわった。大学生インターンは意欲的かつ、理知的に職員とかかわることができ、職場の一員レベルの業務を行えるレベルのインターンとなっていた。

○中高生インターン
中学3年生が本件イベント運営を中心に業務を行った。本件イベントでは、小学5年生に参加対象を絞ったことから、参加者の近い将来である、中学生年代の運営者がいることで、参加者の理解促進につなげることができた。

※教育委員会事務局経由のインターン
今回、教育委員会事務局経由のインターン生の派遣はない。



No.5 「科学」ってなんだ？

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	はまぎん こども宇宙科学館
実施日時・回数	8月16日（水） 計1回実施
実施会場	はまぎん こども宇宙科学館 1階会議室
参加児童数/保護者同伴数	6人/0人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・館内見学において科学館スタッフの動きを間近に見学した後、それぞれの場所における各スタッフの役割等について考察。 ・「浮力」をテーマにした実験を科学館スタッフが実演した後、参加者自身が「予想」「実験」「観察」を体験。科学とは、自然界の「なぜ？」を探求していくものであること、今回取り上げた浮力などの自然界の法則は、過去の人たちが「予想・実験・観察」を繰り返して明らかにしてきたものの積み重ねであることを学び、全体を通して意見交換。

★参加児童の主な感想・意見

- ・科学館には小さいころから何度も来ていたのでよく知っている。今日は参加することができてよかった。
- ・科学館を見学して、科学館のスタッフの動きを近くで見ることができた。チケットを売ったり、展示物の説明したり、お客様が体験する展示物の機械を動かしたり、フロア全体を見ていたり、それぞれ違う役割があることが分かった。
- ・自分が科学館のスタッフだったら、お客様の前で実験をしてみたい。
- ・実験がおもしろかった。いろいろなものを浮かせて、いろいろなことを知った。
- ・実験では、予想と違う結果になったものがあった。実験で確かめられてよかった。
- ・今日持ってきた浮くか沈むか調べたいものを実験で確かめられた。他の人が持ってきたものと一緒に観察できたのでおもしろかった。
- ・他の実験などもやりたいと思った。

参加児童の写真①



実験結果を予想し、回答する様子

参加児童の写真②



グループ活動における実験の様子

参加児童の写真③



実験を観察する様子

参加児童の写真④



実験について学生サポーターと対話している様子

★学生サポーターの主な感想・意見

- ・参加者は最初は緊張した様子だったが、実験が始まると生き生きとした表情に変化した。
- ・実験ならではの、参加児童同士の主体的な交流が生まれていた。
- ・ふりかえり会の司会と実験のサポートなどを担当し、様子を見ながら参加者に声かけをした。これまでの経験で身につけていた「全体を見て動く」ことが今回のイベントにおいても役立った。

学生サポーター活動中の写真①



実験の演示と参加者の反応を見守る様子

★企業・団体等の感想・意見

- ・学生サポーターは、参加者と科学館スタッフの橋渡し役を積極的に担ってくれた。
- ・参加者は始めは緊張した様子だったが、科学館スタッフによる実験の演示が始まると、各々予想をしたり活発に発言するようになった。プログラム開始時からこの雰囲気を作ることができたら更に良かった。
- ・館内見学においては、各所の科学館スタッフそれぞれが担当する役割を解説することで、科学館を新たな視点で見てもらえる機会となった。
- ・館内見学の感想や実験結果等を書き込めるワークシートを参加者に配付し活用した。参加者は熱心に書き込んでおり、主体的な学びにつながっている様子だった。
- ・館内見学、実験、参加者による発表を設定したが、実際に進行するとボリュームのある内容となった。限られた時間内でより充実したものとなるよう、今後は時間配分に留意し、ポイントを絞りたい。

学生サポーター活動中の写真②



グループ活動をサポートする様子

企業・団体等の活動中の写真



活動を振り返りながら参加者と対話する様子

No. 6 病院のお仕事体験ツアー

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

団体名 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

実施日時 8月17日（木） 12:50～17:00

実施会場 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

参加児童数/
付添者数 参加児童：20人 付添者：19人

プログラム内容 各部署が仕事の内容を紹介。
部署で特色を生かした体験プログラムを提供。
例) 画像診断部：CTを使用した魚の透視
栄養部：炭酸飲料にとろみをつけた嚥下食体験
検査部：血液型を調べる体験
看護部：付添者の血圧測定体験 など

両コース共通プログラム（医療安全管理室、看護部、医師）



アルコール消毒の手順を説明
【医療安全管理室】



付添者の血圧を測定
【看護部】



脳神経外科医のお話
【医師】

Aコースプログラム（栄養部、画像診断部、リハビリテーション部）



食育SATシステムによる栄養
バランスチェック【栄養部】

CT撮影した魚のデータを3D
画像への処理体験
【画像診断部】



ポータブルスプリングバランサーを
使用したリハビリ体験
【リハビリテーション部】

Bコースプログラム（薬剤部、検査部、臨床工学担当）



お菓子を薬に見立てて
一包化体験【薬剤部】



光学顕微鏡で血液の観察
【検査部】



電気メス体験
【臨床工学担当】

参加児童の主な感想・意見

【看護部】

点滴はただ流しているのではなくて、一滴一滴が落ちるタイミングを看護師さんが秒単位で考えて調整してくれていることを知ってすごいと思った。

【医療安全管理室】

手洗いで汚れがほとんど落ちてすごいと思った。

【栄養部】

飲み物にとろみをつけるのははじめてだったが、飲みやすくなってびっくりした。

【リハビリテーション部】 (腱反射の検査で)

膝を叩いて、足が勝手に動くのに驚いた。

【検査部】

液体（試薬）を垂らすだけで血液型によって違う反応がでるのが面白かった。

【薬剤部】

薬（軟膏）を容器に詰めるのが難しかった。普段使っている薬もこうやって薬剤師さんが詰めてくれていたのだと知れた。

【臨床工学室】

電気メスは、変なおいがしたがスツと切ることができた。

【画像診断部】

画像診断部で箱の中身を当てるのが難しかった。

【医師】

内科と外科の仕事が思っていたのと違っていた。頭の中にクリップを入れるのは大変な仕事だと思った。



★学生サポーターの感想

なかなか目にする機会が少ない病院の裏側をツアー形式で見学することができ、貴重な経験をすることができたと感じています。参加者の小学生も付き添いの方々も、年齢を問わず新たな発見の場となっており、私自身も参加して良かったと思うことが多かったです。

また、子どもとの接し方の点において、どの部署の方も笑顔で一緒に目線に立っている姿が印象的だったと感じます。子どもたちも自信に溢れた表情になっていたため、改めて積極性をかき立てるために、共に体験する姿勢が大切だと学ぶ機会になりました。



★感想・意見

- ・コロナの陽性者が増えている時期の開催となったが、参加者の欠席もなく、無事に開催することができた。
- ・院内には患者がおり、各部署も通常業務がある中で、すべての部署がかかわりを持てたのは良かった。「医師」や「看護師」の仕事のみでなく、院内には様々な仕事があることを知ってもらえたと思う。
- ・参加した子どもだけでなく、付添で来られた保護者から「勉強になりました。」という言葉をいただいた。
- ・参加者の多くは、「脳卒中・神経脊椎センター」を知らなかった（初めて来た）と思うが、病院を知ってもらうきっかけになったと思う。

No.7 「まいぎり」を使って火起こしを体験しよう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市三殿台考古館
実施日時・回数	8月16日（水） 1回実施
実施会場	横浜市三殿台考古館
参加児童数/保護者同伴数	16人/25人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	古代の火起こし道具「まいぎり」を使って火の起こし方を体験します。摩擦熱を利用した火起こしの方法で、リズムや力加減などが発火の大きなポイントになります。まず燃焼材となる麻ひもを細かくほぐします。次に「まいぎり」で火種を作り、麻ひもに移して着火します。事前にデモンストレーションをみせ、注意点を解説しました。苦勞していましたが全員無事着火できました。

★参加児童の主な感想・意見

《道具の使い方についての意見が多かった》

- ・テレビなどでみて簡単だと思ったけど、リズムよく押すのは意外と難しかった。
- ・まいぎりの横木を上を持ち上げてしまうと戻ってこないのが難しかった。
- ・力を入れ過ぎて押すと戻らなかった。
- ・簡単だった（経験者）。
- ・難しかった。

《昔の手法を体験して》

- ・疲れたし難しかったけれど、自分の力で火がついたのは嬉しかった。
- ・ライターやマッチなどの簡単ではない方法で火をつけることができたのがよかった。
- ・昔の人は火をつけるだけでも苦勞したと思う。



燃焼材の麻ひもをほぐして準備する様子



まいぎりを使って火をおこす様子
(職員がサポートしています)

★企業・団体等の感想・意見

- ・高学年は火起こしの原理について、科学的な説明（摩擦・運動エネルギーなど）を理解することができ、学習したことを実践する力がある一方で、低学年には難しいようであった。
- ・子どもたちには、できるだけ実感できる身近な例（手の擦り合わせ、ヨーヨー、ぶんぶん独楽など）を使って理解を助けるよう心掛けた。
- ・子どもたちは、テレビなどでみて（成功例を多く）知っていたためか、時間がかかっても諦めず、自分の力で最後までやりきったことで達成感を得ていた。
- ・年齢による能力の差や開催時期（熱中症対策・風雨等気象対策）の問題もあり、今後はメニューについて再考したい。



「まいぎり」の使い方を説明する様子



着火した様子

No. 8 動物愛護センターのお仕事を学ぼう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市医療局動物愛護センター
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 1回ずつ計2回実施
実施会場	横浜市動物愛護センター 視聴覚室、飼育体験実習室
参加児童数/保護者同伴数	81人/106人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ol style="list-style-type: none"> センターのお仕事説明 スライドを使って、動物愛護センターの仕事について説明 犬猫クイズ 犬や猫にまつわるクイズを実施 飼い主探し体験 犬猫のぬいぐるみの マイクロチップや迷子札等のヒントを見てお家を探す体験 お仕事ディスカッション センターの課題に対して、子供たちが解決策を考えて発表

参加児童の主な感想・意見

- ・センターの施設についてよく知ることができて良かった。
- ・犬や猫を飼うことになったら今日学んだことを活かしたい。
- ・マイクロチップや、電話番号を首輪などに付けるのはとても重要なことなんだなと思った。
- ・マイクロチップを埋めこんでも登録しないと意味がないことが分かった。
- ・犬猫の飼い主を探すのはこんなに大変なんだなと思った。
- ・小学生でもできることはあるので、できるところからやりたいと思う。
- ・動物を大切にしようと思った。
- ・センターの仕事は迷子の犬猫を保護するだけだと思っていたが、いろいろな仕事をしていることが分かった。



センターのお仕事説明



飼い主探し体験
(迷子の犬猫のお家探し)



飼い主探し体験
(迷子の犬猫のお家探し)



犬猫クイズ
回答解説



お仕事ディスカッション
(課題の解決策を考える)



振り返り会
感想発表

企業・団体等の感想・意見

今回、当センターのイベントでは参加者を小学5、6年生に絞って募集し、高学年向けのイベント内容を追加した。その中でもお仕事ディスカッションでは、動物の収容数や迷子の犬猫についての課題に対し、子供たちの解決策を聞くことができ、私たちも学ぶことがあった。

お仕事ディスカッション及び飼い主探し体験は、人数調整のため3班に分かれて行った。今回のような参加人数の多いイベントで経験したことを、これからのイベント運営に活かしたい。

応募人数が多く、小学生やその保護者から非常に注目度の高い事業であると改めて感じ今後もぜひ参加したい。



飼い主探し体験の
説明



犬猫クイズの解説

No.9 元気のヒミツの探し方～大事なサインを見つけよう～

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市立大学医学部看護学科
実施日時・回数	8月16日（水）13:00-15:00 1回実施
実施会場	横浜市立大学 福浦キャンパス 看護教育研究棟
参加児童数/ 保護者同伴数	33人/ 28人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<p>【目的】 看護職が行っている人々の健康状態の観察方法や感染予防対策について、医療器具・医療用品を用いて体験することで、看護・医療の仕事への興味・関心を高める。</p> <p>【実施内容】 血圧測定体験、滅菌手袋の装着、シミュレーターを用いた呼吸音の聴取、体験内容に関連した講話（心臓・肺の機能と役割、感染予防について）</p>





呼吸音の聴取方法の説明



シミュレーターで呼吸音を聴く様子

- ☆参加児童の主な感想・意見**
- 血圧の音が小さくて聞くのが難しかった。
 - 滅菌手袋をつけるのが難しかったけど、楽しかった！
 - 聴診器を使って呼吸の音や心臓の音がちゃんと聞こえた。
 - 空気を吸ったときに、肺の下に行くほど音が小さくなるのが分かった。
 - 看護師がやっていることは様々であることが分かって面白かった。



心臓・肺の機能と役割、感染予防についての講話を聞く様子



運営スタッフ

(教員・学生サポーター・看護学生ボランティア)

- ☆保護者の感想・意見**
- 聴診器で肺の音を聞くことで体の構造がイメージでき、いい勉強になっていた。
 - 看護師を目指したいという気持ちになったようで、ここまで興味を持てるとは思わず、子どもの変化に嬉しくなった。

- ☆学生サポーターの感想・意見**
- 看護学生が丁寧に補助をしていたため、子どもたちの主体的な参加につながっていた。学生が多く参加していることは大学ならではの強みだと感じた。

- ☆企業・団体の感想・意見**
- <看護学生ボランティア>
- お子さんたちがとても好奇心旺盛で、自分自身も企画を楽しんで行うことができた。
 - 小学生だから気がつくことや楽しみながら学ぶ姿から、自分に足りないものに気づききっかけになった。
- <教員>
- お子さんたちが看護に興味を持つきっかけになれて良かった。振り返り会の様子から小学生から職業への関心を高める重要性を感じた。



振り返り会

学生サポーターが振り返り会を進行する様子

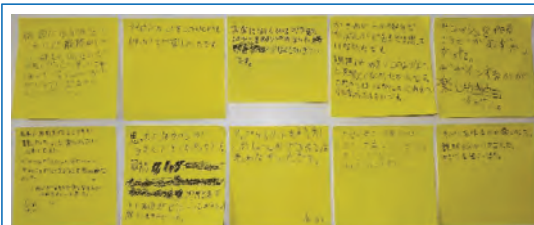
No. 10 不用になった素材で工作しよう！ アップサイクル体験！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	武松商事株式会社
実施日時・回数	8月16日（水） 1回実施
実施会場	武松商事株式会社 エコクルファクトリー 2階多目的会議室
参加児童数/保護者同伴数	10人/14人（保護者11人、子ども3人）
プログラム内容 ※体験したことを記載 （150字程度）	テーマは「不用になった素材で工作しよう！アップサイクル体験！」 最初の30分の講話で、なぜ「ごみ」を減らさないといけないのかを考えてもらい、1時間のワークショップで実際に使用済みのビニール傘に手を加えオリジナルのサコッシュを作ってもらうことで、なんでもすぐに「ごみ」にしない、工夫をすれば不用なモノでも価値のあるモノに変わることを体験していただきました。

★参加児童の主な感想・意見

- ・何回かはがれたりしたけど最終的にいい感じになったのでうれしかったです。いつも使っているビニール傘がバッグになるのがすごいと思います。
- ・アイロンがけをしたり、模様を作ったことが楽しかったです。
- ・お店にならんでいる傘を見てこの傘をあまり使わないで（ごみ）を少なくしていきたいです。
- ・傘のビニールの部分でカバンができるとは思っていなかったです。理由は、あまりこのようなことを考えていなかったからです。これからは他にもごみを減らせるようにしたいです。
- ・サコッシュを作る工程が難しかった。デザインするのが楽しかった。
- ・糸で名前を作るところが難しかったけど楽しかったし上手にできた。ビニール傘でこんなかわいいサコッシュができるなんて思わなかった。身近なもので色々なものが作れてすごいと思った。
- ・思ったよりもカバンがうまくできて良かったです。最初は用意されているのがビニール傘とは思いませんでした。
- ・アップサイクルを利用してカバンができるとは思わなかった。
- ・ただのビニール傘のビニールがひとつ工夫するだけでこんなサコッシュになると感じてよかったなさを感じました。
- ・カバンを作るのが楽しかった。説明も分かりやすかった。飾りをうまくできた。



- ・学生サポーターが提案してくれ、児童たちが一生懸命書いてくれました。

参加児童の手書きのコメント



- ・班に分かれて互いの感想を述べてくれました。

振り返り会の様子

参加児童



ワークショップの様子

学生サポーター

感想

最初に無事に終了したことを嬉しく思います。子供が好きで興味本位で参加した子供アドベンチャーカレッジでしたが、振り返り会のことや派遣先の方とのミーティングなど、今まで体験することのない経験ができて自分の成長を感じることができました。振り返り会を全て任された時は不安でしたが、自分で何を子供たちに考えてもらうのかを考えることができたので、自分も子供たちの成長にも繋がったと思うのでよかったです。

私も武松商事の方が温かく向かい入れてくださり、緊張の中に嬉しさを感じました。また、機会があればよろしくお願いたします。



(グループ別) 振り返り会の様子

企業 (武松商事株)

- ・アップサイクルをする意味合い・理由を前段の講話で話したのでより興味を持ってくれたのではないかと思います。なるべくわかり易く、アニメーション等退屈させないよう工夫したので注視して聴いてくれていたように思います。
- ・アップサイクルについては最も身近にあり、ごみにされやすい「ビニール傘」を選択したのは良かったと思います。捨てるビニール傘がサコッシュになることについて興味を持って取り組んでくれました。
- ・反省は、少し細かい作業があり、次の工程に自分で移れる子が少なかったため、指導メンバーの手が追いつかず全体として時間が押してしまいました。器用な子は少し手待ちになって申し訳なかったです。今後の改善課題とします。
- ・振り返り会は、学生サポーターと事前に趣旨を共有し、運営については学生の自主性と企画力に完全に任せましたが、しっかり考え準備してくれました。時間が押してしまい、思うように進められず申し訳ないことをしてしまいました。それでも待ち姿勢ではなく自ら場に溶け込んで大変よくやってくれました。
- ・このイベントは、横浜市、企業・各種団体、学生、子どもたち、保護者など様々な登場人物がいて、それぞれが持つ課題や悩みが交錯する場であり、成長の機会が盛り込まれた良い取組みと思われます。



講話と工作手順説明の様子

No.11 みんなが捨てたごみはどこへ行くのかな？



企業・団体等名	横浜市資源循環局 金沢工場
実施日時・回数	8月17日（木） 午前・午後 各1回ずつ 計2回実施
実施会場	資源循環局 金沢工場
参加児童数/保護者同伴数	15人/19人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	ごみ収集の仕事を体験したり、ごみ収集車に乗ってごみ焼却工場の中を探検しました。また、ごみクレーン運転や機械の修理など、ごみ焼却工場働くひとたちの仕事も疑似的に体験しました。サイエンス教室では、工場の排水処理について実験しながら楽しく学びました。

★参加児童の主な感想・意見

- ・収集車に乗って景色をみたり、クレーンを見れたり貴重な経験ができた。
- ・普段入れないところに入れてよかった。
- ・普段乗れない収集車に乗れてよかった。
- ・普段できない体験ができてよかった。
- ・ごみを減らすためリサイクルしていきたい。
- ・体験してみてごみへの考え方が変わった。
- ・お正月も休まず働いてくれてありがとう。
- ・電気修理の体験が楽しかった。
- ・クレーンの運転が楽しかった。
- ・全部楽しかった。



参加児童の写真①



(積み込み) ごみの収集体験 (排出動作)

参加児童の写真②



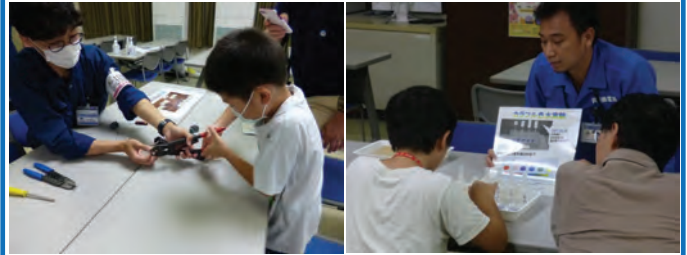
(燃やすごみ) 収集車乗車体験 (缶びんペット)

参加児童の写真③



ごみクレーン疑似運転体験

参加児童の写真④



設備修理体験 と サイエンス教室

★企業・団体等の感想・意見

- ・市民のみなさまに楽しんでいただけるよう、少しずつ準備を進め、より多くの職員が従事できるように日常業務を調整し開催日を迎えました。
- ・ごみ焼却工場や収集車のことをよく知らないという方が多かったので、次回はゆっくりと工場見学にお越しいただけたらと思いました。
- ・振り返り会では、人前で発言をすることに慣れていない児童さんは時間がかかってしまいましたが、話し終わるとみなさんから拍手があり、とても和やかに進行することができました。
- ・ご参加されたみなさんに、捨てたごみがどのように処理されているのかを少しでもご理解いただければ幸いです。

企業・団体等の活動中の写真



モニターで児童の操作を見て職員がクレーンを運転

企業・団体等の活動中の写真



多くの職員がおもてなしをさせていただきました

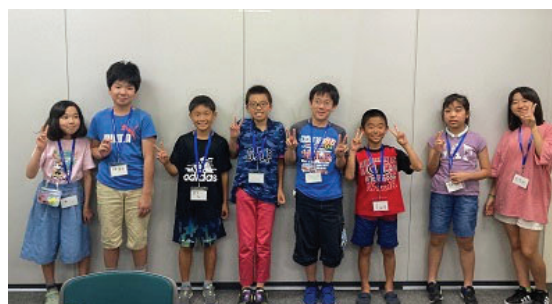
No.12 世の中を便利にする コンピュータのお仕事を学ぼう！

企業・団体等名	株式会社タスクフォース
実施日時・回数	8月16日（水）10時、14時 計2回実施
実施会場	株式会社タスクフォース5階会議室
参加児童数/保護者同伴数	12人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	コンピュータがどのように進化してきたか振り返る。 普段の生活の中でどんなところに使われているか認識する。 どんなコンピュータがあったら便利か想像する。 プログラミングをしてコンピュータの動きを確認する。

★参加児童の主な感想・意見

- ・プログラミングが楽しかった。
- ・プログラミングは難しかったけど、できた時はうれしかった。
- ・いろいろなところにコンピュータが使われているのが分かった。
- ・コンピュータの仕事が少し分かった気がする。
- ・昔と今では全然違うことが知れてよかった。
- ・もっとプログラミングの勉強がしたいと思った。

参加児童の写真①



午前の部・参加の子どもたち

参加児童の写真②



午後の部・参加の子どもたち

★学生サポーターの主な感想・意見

小学生にどうしたら興味を持ってもらえるか、どうしたら分かりやすく説明できるか、企画の段階から関わられたので良かったです。

また、当日も話に集中してもらえるように話し方を工夫したりして、大変でしたが自分自身も勉強になりました。

最後は楽しそうに帰ってくれたので良かったです。

学生サポーター 活動中の写真



コンピュータの移り変わりを説明。
小学生に質問を投げかけたり、
会話形式で進行することを意識。

★企業・団体等の感想・意見

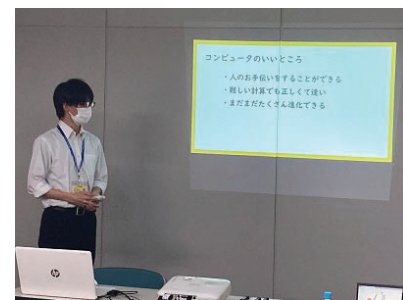
・子どもたちがどのような反応を示してくれるか手探りでしたが、しっかり話を聞いてくれてよかったです。思っていた以上に、いろいろなことを知っていてビックリすることも多々ありました。プログラミングも一生懸命取り組んでいましたが、学年や個人差もあり進み具合が異なるので、進め方にもう少し工夫がいるかなと思いました。

・単にプログラミングを体験してもらっただけでなく、いかにして仕事に結びつけて伝えていく内容にすることと、それを小学生に関心を持ってもらうことのバランスを考えることは、自分にとって仕事の意義を考える良い機会になりました。

企業・団体等の 活動中の写真



人間の強みとコンピュータの強みを説明



プログラミングの説明

No.1 3見て、触って、乗って、車のエネルギーを体感しよう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	株式会社タツノ（横浜工場）
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 2回ずつ計4回実施
実施会場	株式会社タツノ 横浜工場構内及びショールーム
参加児童数/保護者同伴数	40人/40人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ●水素で走る車に乗って燃料電池自動車の仕組みを学ぶ。 ●給油体験をしガソリンが満タンで止まる謎を解く。 ●ガソリンスタンドの地下を探検する。 ●環境に優しい給油機について学ぶ。 ●EV自動車の仕組みを知る。

★参加児童の主な感想・意見

・給油体験をしてガソリンスタンドの仕組みが良く分かった。

・水素自動車に乗ると外の鳥のさえずりが良く聞こえた。

・水素充填機は80メガパスカルに昇圧して利用する。
しかしメガパスカルという表示よりヘクトパスカル表示の方が分かりやすい。

・水素は体積で測らず重さで測る、その方法をコリオリメーターと言います。
それを見てコリオリ力は地球の自転の力のことを言うが、コリオリメーターの設置する緯度によりどの様に調整するか詳しく聞きたいと言われた。



給油を体験する様子



環境に優しい計量機について学ぶ様子

★学生サポーターの主な感想・意見

学生サポーター自身とても楽しく活動することができたようです。

子どもの考えに的確に意見を言うことがなかなかできないことがジレンマの様でした。

振り返り会で子どもと親御さんが、一つの意見にまとめるための話し合いをしているのを聞いて、非常に感銘したとのことでした。

サポーター自身が思う以上に素晴らしい活動しており、タツノとしてもとても助かりました。



振り返り会において、見学会の感想等親子でまとめる様子を巡回する学生サポーター

★企業・団体等の感想・意見

子ども達は見ることにすべて新鮮です。ひとつひとつ鋭く観察して行動します。例えば水素の充填体験をおこなえば、大人のやり方を注意深く見て真似をします。初めてとは思えないくらい慎重に行動します。当社も物作りを行う企業として、子どもの目線を参考にお客様を裏切らない環境に優しい製品の開発・製造・販売・メンテナンスを行いたいと改めて思いました。



CO2削減について講習する様子

No.14 学芸員と一緒に博物館の裏側を体験しよう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市歴史博物館
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 1回ずつ計2回実施
実施会場	横浜市歴史博物館 研修室他
参加児童数/保護者同伴数	17人/35人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	普段見ることのない博物館の裏側(バックヤード)を学芸員と一緒にまわることで、博物館の仕事について追体験する。

★参加児童の主な感想・意見

- ・しりょうについた虫などをころすところがあってすごいなと思いました。
- ・図書のところへ天井につくほど本がいっぱいあったこと。
- ・いろんな工夫をしてたくさんして昔のし料をかんりしていることが印象に残りました。
- ・ぶつぞうのめがすいしょうでできているのをしってびっくりした。
- ・博物館にはこんでからてんじするまでに色々なことをしていたことが印象にのこりました。
- ・大きいエレベーターがおもしろかった。
- ・めいろみたいなおとろとはおもわなかったです。
- ・作品を守るためのドアなどのたいさく



資料(仏像)を見学する様子



資料(絵画)を見学する様子



解説を聞く様子



バックヤードで解説を聞く様子

★企業・団体等の感想・意見

博物館の裏側を体験してもらうために実物を目の前に資料の取り扱い講座と、博物館を歩いてまわるバックヤードツアーを実施した。

小学生には少し難しい内容もあったかもしれないが、アンケート結果がおおむね好意的だったこともあり、約1時間半のプログラムを楽しく体験してもらえたのではないかとと思われる。

今後、参加者に対してより分かりやすくまた興味を惹く体験をしてもらえるようプログラムの校正を検討していきたい。



資料(仏像)を準備する様子



解説する様子

No.15 ごみ焼却工場のお仕事を体験しよう！



企業・団体等名	横浜市資源循環局都筑工場	
実施日時・回数	8月17日（木） 13:00～15:00実施	
実施会場	資源循環局都筑工場	
参加児童数/保護者同伴数	10人/22人※	※小学2年生以下の同伴者も含む
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<p>収集車のごみをおろす投入ステージや、ごみを燃やす焼却炉の内部など、普段の市民見学では見ることのできないごみ焼却工場の設備について、バスツアー形式による見学会を実施しました。</p> <p>併せて、ごみクレーンについて、実際に操作室の椅子に座ってクレーンを模擬操作する体験会についても実施しました。</p> <p>また、職員作成のヨコハマ3R夢プランに関する職員作成の展示物やゲームについても披露しました。</p>	

★参加児童の主な感想・意見

- ・ 社会科見学が学校であったけれど、熱で行けなかったから参加した。バスツアーやクレーンの操作体験ができてうれしかった。
- ・ 学校でごみの勉強をしていて興味をもったので参加した。バスツアーで焼却炉を見られて勉強になった。
- ・ クレーンの操作が面白かった！

参加児童の写真①



バスから投入ステージを眺める様子

参加児童の写真②



バスから焼却炉を眺める様子

参加児童の写真③



ごみクレーンを模擬操作する様子

参加児童の写真④



ごみクレーンを模擬操作する様子

参加児童の写真⑤



職員作成のゲームを体験する様子

参加児童の写真⑥



振り返り会の様子

★運営を行った職員の感想・意見

- ・コロナ禍以降久しぶりの工場内大型イベントということもあり、応募者の数も多かったことから、「ごみ焼却工場について知りたい!」と考えを持った子ども達の熱量の高さに驚いた。(参加者とりまとめ担当職員)
- ・案内中多くの歓声が聞こえ、ごみ焼却工場の設備について強い印象を与えられたと思う。(バス案内役職員)
- ・クレーンを模擬操作出来て喜んでいる子ども達の姿がかわいらしかった。(クレーン模擬操作ブース担当職員)
- ・お見送り時、着ぐるみの回りに常に子ども達がいっぱいで身動きが取れず大変だった。(着ぐるみ担当職員)

参加職員の写真①



バスツアーで案内をする職員の様子

参加職員の写真②



参加者のお見送りをするマスコットの「ミーオ」

No.16 石の鑑定会

—皆さんの持っている石が何か一緒に勉強しましょう。



企業・団体等名	神奈川県鉱物研究会
実施日時・回数	8月17日（木） 計1回実施
実施会場	とつか区民活動センター 会議室
参加児童数/保護者同伴数	32人 / 0人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	当初30分ほど石の話として、石とはどのようなものがあるのか、岩石、鉱物、化石、隕石などを説明。皆に配布した水晶の観察と説明、方解石の性質の勉強と複屈折や塩酸による反応などの勉強などを行い、5分の休憩のあとは、皆が持参してきた石が何かを鑑定し、どのようなものかを説明した。



方解石の複屈折を観察する様子



方解石の劈開（へきかい）を観察する様子

【参加児童の様子】

自分の持ってきた石の名前や性質を知り、喜んでいますが、他の児童がもってきた石のことも興味を持って見ていた。30人の定員に対し125人の申し込みがあり、石に興味を持つ児童の多いことに驚いた。良く石のことを知っている児童がいることにも感心させられた。

★参加児童の主な感想・意見

アンケート結果：

4年生：13 5年生：11 6年生：8

- ・話は面白かったか？には全員「はい」
- ・内容が難しかったか？には
 - ・難しかった 1人
 - ・やさしかった 6人
 - ・少し難しかった 残り25人

★面白かった点、良かった点：

- ・水晶の特徴を知ったこと。6
- ・方解石が砕けるところ。5
- ・方解石の複屈折。4
- ・方解石を塩酸で溶かす実験が楽しかった。13
- ・石を鑑定してもらったこと。6
- ・やさしく話してくれたので面白かった。
- ・水晶(石英)がガラスの原料やスマホに使われていること。2
- ・鉱物や岩石の特徴が分かったこと。19
- ・色々な石がみれた。2



花崗岩を観察する様子

★難しかった点、直してほしい点：

- ・マグマの話。
- ・難しい言葉があった。
- ・声が聞き取りにくかった。



パワーポを使って授業する様子



児童が持ってきた石を鑑定する様子

★企業・団体等の感想・意見

抽選に漏れた父兄から今後同様な催しが無いのかとの問い合わせが多かったため、翌18日に先着30名に追加の講座を実施した。
来年も同様の企画を要請され関心の深さを痛感した。
受講した児童の熱心さもあり、また実施したいと思っている。

No.17 子ども薬剤師体験セミナー

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜薬科大学
実施日時・回数	8月17日（木） 午前1回、午後1回の計2回実施
実施会場	横浜薬科大学 薬剤学実習室及び模擬薬局
参加児童数/保護者同伴数	27人/39人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	体験セミナーとして、講義・体験準備（モバイルファーマシーの見学及び手指消毒）・実習（錠剤、漢方、水剤）に領域を分けるとともに参加者をグループ化（赤、黄、緑）し、学生が参加者に対し、個別に付き添い各種の調剤を体験していただきました。

★参加児童の主な感想・意見

- ・自分の学校で実験をした時よりも楽しかった。
- ・お薬を包む実験とシロップを作る実験が楽しかった。
- ・漢方でお茶を作るのが面白かった。
- ・白衣を着れて体験できたので、薬剤師さんになった気分でした。
- ・最初のお話（講義）が少し難しかった。
- ・水剤の調剤がとても面白かった。
- ・一人一人に丁寧に教えてくれたのでとてもよかった。
- ・漢方の材料を見るのは初めてで、匂いを嗅いだりできて楽しかった。
- ・漢方の生薬になる植物が意外と身近にあることを知りました。
- ・モバイルファーマシーの中を見て災害の時に実際にどんな感じで処方したりするのかが分かって楽しかった。
- ・ジュースなどを使いながら薬を作る体験をしたところが楽しかったです。
- ・機械を使って一包化するところが楽しかった。
- ・薬剤師について、たくさんお話を聞くことができ楽しかったです。

参加児童の写真①



講義の様子

参加児童の写真②



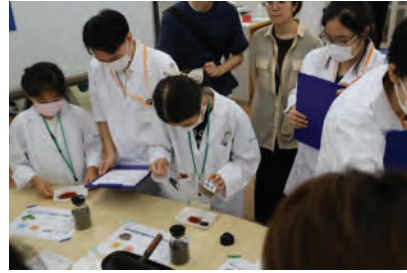
モバイルファーマシーを見学する様子

参加児童の写真③



手指消毒をする様子

参加児童の写真④



漢方の配合をする様子

参加児童の写真⑤



薬の調合（錠剤）をする様子

参加児童の写真⑥



薬の調合（水剤）をする様子

★企業・団体等の感想・意見

運営や企画を本学の学生に任せて、費用や環境のみ大学職員で援助した。学生の主体性を尊重したことによって、本学の学生も学びの場となり参加者の小学生に教えることで薬剤師の職能を改めて見直す機会となった。

小学生一人に担当学生を一人つけたことにより、質問しやすい環境となったためか、気楽に質問ができ感想なども積極的に話されていた。

また、プログラムの内容で保護者に服薬指導や問診をする場を作ったことで、子供たちが自立し対等に保護者と会話できる場となった。保護者からも好意的な感想が多く寄せられた。

振り返りでは、今年度は他大学の学生がいなかったため本学の学生がファシリテートした。大学生の知識や技量に感動した感想や楽しかった内容が多かった。今後は更に子どもの気づきから発展できるような誘導ができればと思う。

本プログラムで子どもたちの主体性の場となっただけでなく、薬学の面白さや薬剤師の職業について学ぶ機会を作ることができ、薬剤師になる動機づけの場となった子供もいたことは、薬学部の学生や大学職員にとっても励みとなった。

企業・団体等の活動中の写真



学生が説明する様子

企業・団体等の活動中の写真



受付する様子

No.18 この夏「なぜ？」に挑む！ 『子どものための哲学カフェ』

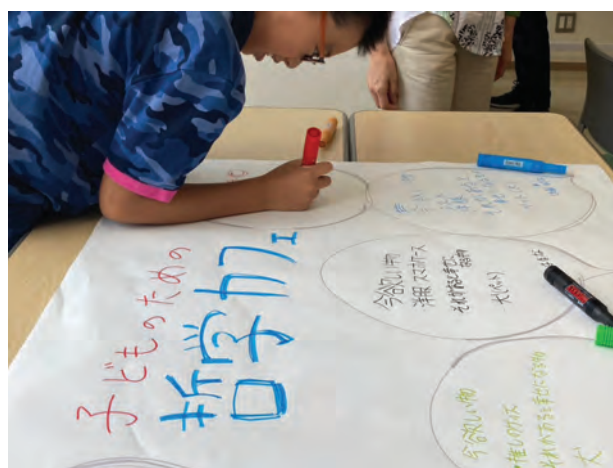
子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	アートの時間
実施日時・回数	8月16日（水） 1回実施
実施会場	とつか区民活動センター 会議室
参加児童数/保護者同伴数	6人/0人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	カフェネームで参加。お互いを知り合うワークの後に、本日話し合いたいテーマを出してもらった。テーマは最も関心の高かった『ケンカとは？』に決定。そこから「なぜケンカが起こるのか？」それぞれの体験から原因を探った。偶然にも環境の大きく違う子どもたち同士の対話となり、文化の違いを考える機会にもなった。

★参加児童の主な感想・意見

- ・他の学校の様子がわかって面白かった。
- ・それぞれの意見が聞けてよかった。
- ・色んなことについて話せてよかった。
- ・ケンカを防ぐ方法も考えられてよかった。
- ・1つのテーマについてみんなでたくさん考えられて楽しかった。

参加児童の写真①



自己紹介代わりに「今欲しいもの」
「幸せになるもの」を書き出すワークの様子

参加児童の写真②



テーマ出しのための参考図書に見入る様子

参加児童の写真③



ケンカをしかけてくる側の気持ちを考える様子

★企業・団体等の感想・意見

アートの時間で「哲カフェ」を始めて約6年、小学校にアーティストと出向いてワークショップを行う活動約15年、まずは、その両者の経験が実を結ぶ企画を実現できたことが喜びです。

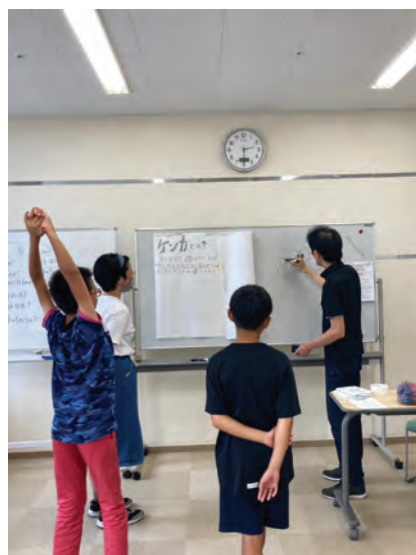
子どもの哲カフェは初でしたが、哲学をすることに大人も子どももないと感じました。むしろ、切実なテーマを選択し、相手の発言を理解しようと真摯に耳を傾ける姿勢や、互いのバックボーンを気にせず、今のこの間を楽しもうとする柔軟さは子どもの方が優るのかも知れません。

今回は『ケンカ』というテーマで対話は進みましたが、人間が本来持つエネルギー、インターナショナルスクールと日本の学校の教育方針の違い、各国の文化・各家庭の文化の違いなど、根底に流れる様々な問題が垣間見え、その場にいたスタッフの方がより深く考えさせられる場ともなりました。

最後に、お迎えに来ていただいた保護者に簡単に経緯を説明し、感想を述べてもらいました。その中で、「こういう会で相手の話を聞いて、今はすべてが理解できなくても、いつか自分の中に落ちてくるときが必ず来ると思う」とおっしゃっていただいたのが、大変印象的でした。

この経験を活かし、様々な年齢・ルーツを持った者同士が一つのテーマについて共に考える企画が作れたらと思います。

企業・団体等の活動中の写真



休憩中に絵で交流する様子
(グラフィックレコードを依頼した画家さんと子どもたち)

No.19 「地域に残る伝説」を腹話術で語り伝えよう

企業・団体等名	とつかコラボ倶楽部 きずな腹話術
実施日時・回数	8月17日(木)10:00~12:00 ・ 1回
実施会場	とつか区民活動センター
参加児童数/保護者同伴数	20人/18人
プログラム内容 ※体験したことを記載(150字程度)	<p>1. 腹話術の実演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹話術とは何か ・腹話術実演 面白クイズ ・地域の腹話術の取組紹介 <p>2. 集団レッスン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロの腹話術師、インストラクターによる講義 声の出し方、動かし方 <p>3. グループ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介ゲーム ・キャラクターを考えて、パペット人形を使った交流や披露 <p>4. 振り返り・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表 「やってみてどうだった?」と会場の仲間からの投げかけに対して、腹話術で発表する。 ・講師のコメント・質問コーナー

★参加児童の主な感想・意見

会独自のアンケートでは 94%「よかった」という回答(17回収のうち「とても良かった」11 「良かった」5)があった。子どもたちの自由記載からも、「新しいことにチャレンジできた」、「自分でできたことがうれしかった」という言葉や、「人形に触れたり、交流できたことが楽しかった」などの回答が多く見られた。

参加20人中 17回収
「とても良かった」11 「良かった」5 「どちらでもない」1

良かった理由

- ・今までやったことのない腹話術を体験できた 6
- ・腹話術のプロに会えたこと 3
- ・色々な人形を自由に触れたことが楽しかった 3
- ・口を動かさずに話すことができた 3
- ・バ行・パ行・マ行 難しい言葉の出し方を細かく知れたこと 2
- ・腹話術を使って喋る体験が多かったこと 1
- ・パペットをもらったこと 1

一番楽しかったこと

- ・腹話術ができてよかった 2
- ・プロの腹話術師の話が聞いて良かった 2
- ・グループの人とキャラクターの紹介やお喋りが一番楽しかった 2
- ・人形を自由に触られたこと
- ・面白クイズが楽しかった
- ・人形でお話する練習もできたり、色々なことを話すのが楽しかった

今後について

- ・体験したことを家族や友達に伝えたい 14
- ・イベントがあれば参加してみたい 6
- ・やり方を学んでみたい 4
- ・パペット人形を自分で作ってみたい 8
- ・お客さんの前でやってみたい 3
- (おじいちゃんにみせたい、かくし芸としてやりたい)

参加児童の写真①



パペットの使い方を学ぶ様子
プロの腹話術師による集団レッスン
パペット人形を使い「声の出し方」「人形の動かし方」を学ぶ様子

参加児童の写真②



・パペット人形を使い、お喋りしたり、ふれあう様子

参加児童の写真③

発表の様子



「やってみてどうだった？」という仲間からの問いかけに対して児童が腹話術で感想を発表する様子

参加児童の写真④

児童が発表する様子



★学生サポーターの主な感想・意見

・主催者と参加者の一体感を強く感じました。対話を求めることが多かったことや、保護者の皆さんにも楽しんでもらう意識が一体感を生んでいたと思います。

・名札を作成させて、子供達の間でも交流ができていたことも良かったです。

・一人一人パペットを持って練習できることが興味を鷲掴みしていて、家で練習できると喜んでいました。やはり思い出とは別に、形として何か持って帰ってもらうことは大事だと感じました。

・沢山褒め合ってお互いを高めていくことを大切にされていて、とても感銘を受けました。何歳になっても忘れてはいけない大事なことで改めて感じました。

・打ち合わせをしたり、当日企画を大成功させた経験は、この後の就活だけでなく、大人になってからも、人やチームと関わる際に生きてくると思います。偶然ではありましたが、素敵なプロジェクトにご一緒することができて、とても嬉しかったです。

学生サポーター

活動の様子を撮影



グループワーク進行
運営補助



★企業・団体等の感想・意見

(どのような気づきがあったか、今後この経験をどう生かそうと思うか)

腹話術で人と触れ合うこと、自分を表現する体験を通して、子ども達に腹話術の楽しさや対話の魅力を知ってもらうことができました。

それぞれの個性を活かした主体的な学びとなるよう、各グループでの交流は、子ども同士で人形のキャラクターを紹介をしたり、自由にスタッフの人形を触らせたり、安心して自由に楽しめるように配慮しました。

各グループや個性に合わせた対応を、スタッフ全員で分担し、きめ細かにできたのが良かったです。スタッフの年代、個性も様々でフォローし合えたと思います。

最後に、一人ひとり、腹話術で発表を行う機会を持ったことで、子どもができることの喜びを感じてもらい機会となりました。

学生スタッフさんには、グループワークや資料配布、撮影など、機転を利かせてくれて、とても力になりました。

コロナやマスクの推奨などにより、人とふれ合うことが困難な習慣で育ってきた子どもたちにとって、腹話術は、温かなふれあいの楽しさを与え、孤独や不安をやわらげ、健やかな心を育むきっかけとなると思います。

今後も腹話術の普及活動を通じて、教育の現場や地域のつながりづくりにより温かいふれ合いの場を広げていきたいと思っております。



企業・団体等の活動中の写真



腹話術を実演する様子

企業・団体等の活動中の写真



腹話術人形でふれ合い体験の様子

No.20 アナウンサーと学ぶ！伝わる朗読

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	大佛次郎記念館
実施日時・回数	8月17日（木） 計2回実施
実施会場	大佛次郎記念館 会議室・2階サロン
参加児童数/保護者同伴数	15名/16名
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	あまんきみこ「ちいちゃんのかげおくり」を題材に、最初に講師の実演を鑑賞。その後、保護者は記念館での展示鑑賞に移り、講師と子どもたちで、以下を目標にかかげ、45分間の朗読プログラムを実施。 ①登場人物の声を变えよう ②「間」を工夫してみよう ③聞いてくれる人に届くように声の大きさと目線を考えよう！ 最後にサロンに移動し、保護者の前で各自発表を行った。

★参加児童の主な感想・意見

- わたしは、ほんばんが終わった後うまくできてよかったなと思いました。さんちょうしたけど、みんなに伝わるようにできたなと思ったのでうれしかったです。
- みんなの前ではっぴょうするので、とてもきんちょうしていたけどできてよかった。トップバッターでとってもきんちょうしました。
- 教えてもらった後は、さらに上手になったので、これからもいろいろな作品を読んでいきたいです。
- はじめは、人前で音読することなども自信があまりなくて、できなかったんですけど、今日参加して自信を持つことができました。はじめて、本物のアナウンサーに会えたので、とても楽しかったです。これからもろうどくを続けていきたいです！
- 「音読」と「朗読」のちがいがわからなかったけれど、感情のこめ方を知ることによって、わかるようになりました。これからも朗読を続けようと思います。
- とても楽しかったし、とてもわかりやすかったです。もっといろいろな作品を読んでみたいです。

参加児童の写真①



1回目のプログラムの様子

参加児童の写真②



2回目のプログラムの様子

参加児童の写真③



2回目の個人練習の様子

参加児童の写真④



参加者発表の様子

★企業・団体等の感想・意見

プログラム中、講師の言う事を、真摯に受け止め、素直に吸収している子どもたちの様子を目の当たりにし、今回のプログラムが、とても良いものになるという手ごたえを実感しました。

実際に、1回目・2回目とも、子どもたちの最初の音読と、最後の一人ずつ行った発表を比べると目を見張るくらい違いがありました。

朗読の得意な子どももそうでな子どもも参加していましたが、一様に自分自身の読み方が上手になった事を実感し喜んでいる様子で、実施してよかったと感じています。

また保護者には、子どもたちがプログラムに参加している間、展示中の「おさらぎじろう展—漫画『ぼくの伴侶 猫と大佛次郎物語』より」の展示解説を聞いていただき、文学館ならではの体験をしてもらうことで、大佛次郎に興味を持ってもらうきっかけを作ることができました。

今回、初のプログラムでしたが、子ども・保護者共に、非常に満足度が高く良い評価をいただきました。

企業・団体等の活動の様子



講師による講評の様子

No.21 学芸員のお仕事体験をしてみよう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜人形の家
実施日時・回数	8月16日（水） 計2回実施
実施会場	横浜人形の家2階多目的室
参加児童数/保護者同伴数	8人/15人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	横浜とも関係がある「青い目の人形」について、実際に人形を前に学芸員からお話を聞いた後、人形について説明する文章(A4一枚)を作るお仕事を体験した。「青い目の人形」ってどんなお人形？自分が「青い目の人形」をお友達に紹介するとしたら、一番伝えたいところはどこかな？どうしたら伝わるかな？どんな風にまとめようか？一緒に考えながら作成し、最後に発表を行った。

★参加児童の主な感想・意見

「選んだ人形：ブロッソン/わたしがブロッソンをえらんだ理由は、リボンと白とクリーム色がまざったふくがオシャレでかわかったからえらびました。ブロッソンはよこはましりつ本町小学校にアメリカから、送られ、昭和1964年に、本町小学校の校舎で再発見されました。わたしは「さいはっけんされたのはすごいなあ」と思いました。(3年生)」

「選んだ人形：ジュニア/この人形を選んだ理由は他の人形とくらべると、新しいこともあって、洋服に少しなじみがあって親しみやすいかんじがあったからです。他の人形とくらべると、かみがたも少しなじみがあってリボンもついていて、かわいいと思いました。ふだん小さい子が遊んでいる人形と少し似ていると思いました。(5年生)」

「選んだ人形：ブロッソン/私がブロッソンを選んだ理由は洋服がかわいくて気に入ったからです。あと、この人形がアメリカから日本に送られたときに、ちゃんとパスポートと切手を持たせてあげたのがなんだかかわいくていいなと思いました。でも、この後に戦争が始まって、人形が敵国のシンボルになってしまったのがとても残念だと思いました。S.L.ギュリック博士が日本とアメリカの仲を心配して、人形を送って仲よくしようとしたのがとても平和な感じがしてこれからも続けていったらいいなと思います。(6年生)」

参加者が作成した解説シートから引用

参加児童の写真①



「青い目の人形」について説明を聞く様子

参加児童の写真②



解説シートを作成する様子

参加児童の写真③



自分が作成した解説シートを発表する様子(上下共)

参加児童の写真④



終了後、記念撮影をする様子

★企業・団体等の感想・意見

- ・小学生が課題に取り組む姿を見て、対象(人形)の何を一番伝えたいか、誰に対して、どうしたら伝わるか意識することの大切さを再認識できました。
- ・小学生が「青い目の人形」のどこに注目し、どのように説明するか、とても関心がありました。3年～4年生には少し難しい内容かとも思いましたが、それぞれしっかり時間内でポイントを見つけ、文章にまとめてくれました。
- ・学生サポーターさんが交通機関の乱れの影響で参加できませんでした。

企業・団体等の活動中の写真



解説文の書き方について説明をする様子

企業・団体等の活動中の写真



人形について説明をする様子

No.22 重ねて発見！ダンボールで横浜のジオラマを作ろう

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	一般社団法人 防災ジオラマ推進ネットワーク
実施日時・回数	8月17日（木） 2回 計2回実施
実施会場	一般社団法人 防災ジオラマ推進ネットワーク事務所
参加児童数/保護者同伴数	午前 10人/8人 午後11人/9人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	関内周辺の埋め立て等による地形の変遷について、皆で段ボールジオラマを使って再現しながら、横浜の歴史を学んだ。 あわせて、出来上がったジオラマを見ながら危なそうな場所について参加児童に考えて発表してもらい、実際のハザードマップとの対比によって地形やその成り立ちと災害リスクとの関係についても学んだ。

★参加児童の主な感想・意見

〈4年生〉

- ・ものづくりが好きだから、ジオラマ作りは良い経験だった。楽しかった。
- ・地形を知れて、さらに災害も知れた。
- ・なかなかない経験で、防災にも役立った。
- ・歴史が学べて良かった。
- ・家でも作ってみたいと思った。

〈5年生〉

- ・防災についても知れて良かった。
- ・どこに災害が起きるかが知れた。
- ・思ったよりも（ジオラマ作りが）簡単だった。
- ・工作が好きだから楽しかった。

〈6年生〉

- ・歴史と防災を一石二鳥で学ぶことができた。
- ・ハザードマップを見てみたいと思った。

参加児童の写真①



ジオラマ組み立ての様子

参加児童の写真②



吉田新田の埋め立てを再現

参加児童の写真③



戦後の運河の埋め立てを再現

参加児童の写真④



よく行く場所、危ないと思う場所に付箋を貼っている様子

★学生サポーターの主な感想・意見

- どのような気づきがあったか
- 子供たち同士のコミュニケーションにどこまで介入するかが難しかった
(パーツをはめる役割の偏りなどの際)
- 子供たちが楽しくかつ学べるコンテンツとは何かを考えるきっかけになった
- 今後この経験をどう生かそうと思うか
- 今回のサポーターとしての経験で、周りを常に意識し、適切なタイミングで自主的に動くことを実践できたため、社会人になっても重要なスキルとして生かしていきたい。
- 来年から社会人になるため、子供たちをターゲットにした場合に、どうやって興味を持ってもらうか、知ってもらうかという視点を学ぶことができた。

学生サポーター活動中の写真



参加児童に今日の感想をさく様子



児童に今日のまとめを話す様子

★企業・団体等の感想・意見

(どのような気づきがあったか、今後この経験をどう生かそうと思うか、など)

今回使用した関内のジオラマ自体は従来からあったものの、コマ送り動画による歴史の再現といった用途での使用のみで、このジオラマによるワークショップはしていなかった。
今回のワークショップの中で、まちの変遷に合わせて参加者とともにその時の地形を再現していく作業はとても一体感があり、地形の変化にポイントを置くことで、時代背景と人々の活動がリアルに浮かび上がってくるのを実感することができた。

今回のワークショップをベースに他の機会でも実施してみたい。また、学校授業としての可能性も手ごたえを感じたため、横浜市に提案してみたい。

企業・団体等の活動中の写真



対象エリアについて説明する様子

企業・団体等の活動中の写真



ジオラマを見ながら解説する様子

No.23 議事堂探検！議員を体験！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市議会事務局 政策調査課
実施日時・回数	8月16日(水) ①10:00~11:30 ②14:00~15:30 8月17日(木) ③10:00~11:30 ④14:00~15:30 計4回
実施会場	横浜市役所 市会議事堂
参加児童数/保護者同伴数	115人/130人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	「自分たちの住んでいる街の大切なことが、どのように決められていると思いますか？」 普段入れない議事堂内を特別公開！動画やクイズを交えて、議会の仕組み、議員の仕事内容をわかりやすく紹介します。 プログラムの後半では実際に議員席に座って議員体験ができます。

★参加児童の主な感想・意見

- ・議員さんと同じ体験ができて嬉しかった。また来たい。
- ・議員の仕事内容が詳しく知れてよかった。
- ・議会に興味を持てた。
- ・色々な所を探検できて楽しかった。
- ・はじめて議会に来てみて、議員の人がどのようにして横浜市に関わることを決めているのかがわかり楽しかったです。
- ・良い思い出になりました。
- ・議員が86人いることに驚きました。(もっといると思っていた)
- ・議員になった気持ちになった。
- ・クロスワードで色々なことを学べたので、良かったです。
- ・議員さんがやっている事がよく分かったので、将来議員さんになりたいと思いました。
- ・実際に会議をみたり、やってみたい。
- ・質問ができてよかった。
- ・ボタンを押して投票するのが、面白いと思った。
- ・普段見れないところが見れて良かったです。

参加児童の写真①



議会や議事堂についての動画を観ている場面

参加児童の写真②



本会議場で、議員体験として電子採決を行った場面

参加児童の写真③



議事堂内の探検を行っている場面①（傍聴席）

参加児童の写真④



議事堂内の探検を行っている場面②（ホワイエ）

★学生サポーターの主な感想・意見

- ・ 議事堂探検説明時の声の強弱や歩くスピードに合わせて話すことや言葉の使い方などを工夫して行った。
- ・ 自ら担当する業務以外にも意識しながら行動できた。
- ・ 説明原稿の読む箇所がわからなくなり、早口になってしまった部分があった。急なトラブルでもしっかり対応できるようになりたいと思った。
- ・ 保護者の方に「説明がわかりやすかった。ありがとう。」と感謝の言葉を頂き、やってよかったと感じた。

学生サポーター 活動中の写真



議事堂探検時の地点ごとに説明する場面

★企業・団体等の感想・意見

限られた時間の中で、可能な限り多くのことを体験してもらうプログラムの構成に努めました。

議会や議員に対する子どもの視点や子どもならではの観点や着眼点などを知れる良い機会となりました。

また、私たち市職員の仕事についても、少なからず興味を持ってもらえるきっかけになったのではないかと思います。

質問の場面では、子どもたちからの積極的な発言が見受けられ、全体的に盛り上がった印象があります。

スタッフ一同、参加者の立場に立った運営を心掛けて行えたため、概ね1時間半のプログラムでしたが、飽きている子どもがみられなかったように感じました。

全体を通して、子どもたちから「体験ができて楽しかった」「また来たい」などの感想を頂け、このプログラムの構築及び実施した甲斐がありました。

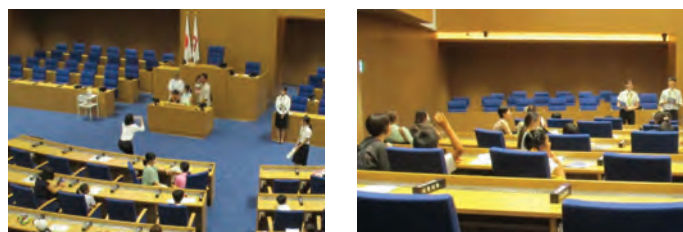
企業・団体等の 活動中の写真



ガイダンス

クイズタイム

企業・団体等の 活動中の写真



本会議場で記念撮影

質問タイム

No.24 キッズ・マネースクール

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜信用金庫
実施日時・回数	8月17日（木） 午前、午後の計2回実施
実施会場	横浜信用金庫 8階大会議室
参加児童数/保護者同伴数	37人/31人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	○下記のカリキュラムを実施 ・信用金庫の仕事（講義） ・本店営業部内等見学 ・1億円の重さ体験 ・お札の偽造防止技術説明 ・お札の勘定体験

★参加児童の主な感想・意見

- ・小学校で教えてくれないことを教えてもらった。
- ・信用金庫の建物内の見学ができてうれしかった。
- ・お札の勘定が難しかった。
- ・お金に対して興味を持つことができた。
- ・1億円、硬貨袋の重量体験がおもしろかった。
- ・防犯の仕組みについて勉強になった。
- ・大金庫を初めて見て驚いた。
- ・信用金庫のことを学べてよかった。
- ・お金の偽造防止技術について興味をもった。
- ・金庫を貸し出していることにおどろいた。
- ・金融に関する多くの資料をもらえてよかった。



信用金の仕事について説明している様子①



信用金の仕事について説明している様子②



1億円の重量体験をしている様子



お札の勘定を練習する様子

★企業・団体等の感想・意見

キッズ・マネースクールについては、子どもアドベンチャーカレッジに参加する前から実施しています。

以前から保護者の方のご意見等には、小学校高学年になりお金のことを学ばせたいが、どのように説明したら良いか分からないとの意見が多く寄せられていました。

当金庫としては夏休みを利用して子どもたちにお金について学んでいただく良い機会と捉え本教室を実施しています。

今回はコロナが5類に移行した要因もあると思いますが、定員の倍以上の申込みがあり、お金に関して学びたいとのニーズが多いことを改めて実感しました。

当金庫としては今後も子どもアドベンチャーカレッジに参画し、地域の皆様のニーズにお応えできるよう努力していきたいと考えています。

No.25 建設のお仕事を体験してみよう！



企業・団体等名	一般社団法人横浜建設業協会／横浜建設業青年会
実施日時・回数	8月16日（水）10時～16時 計3回実施
実施会場	神奈川県建設会館 2階 講堂
参加児童数/保護者同伴数	37人/35人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・建設業のお仕事の話（講話） ・一輪車でものを運んでみよう（体験） ・距離を測ってみよう（体験） ・工具を使ってみよう（体験） ・ドローン操作の見学

★参加児童の主な感想・意見

- ・一輪車で運搬作業を体験して、バランスを保つのが難しく、実際に重いものを乗せて運ぶのは見た目よりも大変なことがわかった。
- ・ドローンのデモンストレーションでは、普段あまり見ることができないドローンで撮影した映像や操作するところを間近で見ることができて、「実際に操作してみたい」と非常に興味を示していた。
- ・プログラムに参加して体験したことや建設業について、家族や友達に伝えたい。
- ・各体験で保護者の方にも参加・体験してもらう場面が多々あり、「お父さん／お母さんと一緒に参加できたことが楽しかった」と保護者の方にも参加してもらったことが好評だった。



参加児童の写真①



一輪車の運搬作業でタイムを競う様子



保護者の方にも参加していただきました

参加児童の写真②



測量機器で距離を測る体験をする様子

参加児童の写真③



工具を使ってビス止める様子

参加児童の写真④



ドローン操作を見学する様子

★学生サポーターの主な感想・意見

プログラムに参加し、実際に働いている方々と話すことができ、貴重な経験でした。臨機応変に対応したり連携をしっかりとっている様子を見て、学生には無いものを感じました。

また、振り返り会では、最初は言葉や進行が曖昧になってしまい戸惑う場面もありましたが、回を重ねるごとに講話の内容を質問に絡めるなど工夫をして、スムーズに進行することができました。

児童達と接して、個人の特性を見つける大切さや、自分の価値観だけで相手を評価してはいけないという事を学び、この経験を今後活かしていきます。

学生サポーター活動中の写真



振り返り会の様子



プログラムのサポートをする様子

★企業・団体等の感想・意見

今年の子どもアドベンチャーカレッジは、昨年より多くの小学生に参加していただきたく、参加人数を増員して実施いたしました。

講話では、建設業の仕事について、映像やクイズを交えて説明し、理解を深めてもらいました。その後、一輪車を使いタイム競争、測量体験、工具を用いたビス止め体験、ドローン操作を見学してもらいました。

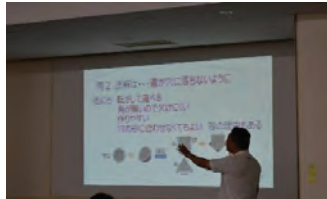
大人でも知らない人がいるような内容のクイズに正解したり、楽しそうに体験する児童の姿からは、建設業に興味を持って参加してくれた事がうかがえ、人々の暮らしを支えている建設業の大切さや魅力をアピールすることができました。

また、保護者の方にもドローン操作の見学や一輪車でのタイム競争に参加してもらい、親子でタイムを競い合う一幕があり、親子で楽しんでいただきました。

各回に横浜建設業協会のマスコットキャラクター「横浜ケンジロー」が登場し、プログラム終了後には児童達に修了証を手渡すなど、地元横浜の皆さんに協会をPRする良い機会となりました。

建設業界では、人手不足・担い手不足が深刻化していますので、建設業への関心が深まり、将来建設業の仕事に就くことを目指すきっかけになれば嬉しく思います。

活動中の写真



建設業について説明する様子



一輪車競争を実演する様子

活動中の写真



振り返り会で学生をサポートする様子



修了証を手渡す「横浜ケンジロー」

No.26 子どもアドベンチャーカレッジ2023 ～お金のおもさを感じよう！～

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	株式会社神奈川銀行
実施日時・回数	8月16日（水）①10:00～12:00 ②13:30～15:30
実施会場	神奈川銀行 本店
参加児童数/保護者同伴数	22人/22人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行の役割、お金の役割、大人になるまでに必要なお金の話 →講義形式でお金の「大切さ」という意味での「重さ」を学んでもらいました ・銀行探検 ・札勘（紙幣の数え方） ・1億円に触れる体験 ・お金の重さ当てクイズ →硬貨の入った袋を持ってもらい、お金の「物質的」な意味での「重さ」を体感してもらいました ・おこづかい帳の使い方

★参加児童の主な感想・意見

- ・銀行のことがよく分かった
- ・楽しくお金のことを学べた
- ・たくさんの方が働いていることが分かった
- ・銀行員がどんなことをしているのか分かった
- ・札勘（お札を数えること）が難しかった
- ・銀行員は素早くお金を数えていて驚いた
- ・1億円がとても重くて驚いた、触れて嬉しかった、貴重な体験だった
- ・大人になるまでに必要なお金の話を聞いて、お金をもっと大切に使わなくてはいけないと思った
- ・今後おこづかい帳を使ってみたい

参加児童の写真①



札勘（紙幣の数え方）にチャレンジする様子

参加児童の写真②



銀行探検の様子

参加児童の写真③



1億円に触れる体験の様子

参加児童の写真④



お金の重さ当てクイズの様子

★企業・団体等の感想・意見

- ・午前、午後の回ともに積極的に取り組んでもらうことができた。個別に質問をしてきてくれた児童もおり銀行やお金について興味を持ってもらえたことを伺えた。1億円に触れる体験、お金の重さ当てクイズへの反応が特に良かった。
- ・札勘は小3、4年生にとっては難易度が高く、少し間延びしてしまったので、来年以降は別のコンテンツの導入も検討したい。
- ・「貯蓄から投資へ」の流れを推進する世の中で、金融リテラシーの向上は必要不可欠であり、地域金融機関として今後も貢献していきたい。

企業・団体等の活動中の写真



「銀行の役割」、「お金の役割」、
「大人になるまでに必要なお金」の講義の様子

No. 27 最高をめざせ！ペーパータワーチャレンジ！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	公益財団法人横浜市建築保全公社
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 2回ずつ計4回実施
実施会場	公益財団法人横浜市建築保全公社 会議室
参加児童数/保護者同伴数	80人/80人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	はじめに建築士から建物やタワーについての講話を聞いたあと、制限時間内に新聞紙6枚だけで高いタワーを建設するという課題に3～4人のチームで挑戦しました。 もの作りの楽しさだけでなく難しさも同時に体験し、チームで協力すること、多様な意見から新しいアイデアが生まれることなどを学びました。

★参加児童の主な感想・意見

- 新聞紙だけで、こんな高いものが作れたことにビックリした。来年はもっと高いものを作りたい！
- 実際に新聞紙での体験が出来て楽しかった。この新聞紙の大きいバージョンが実際のビルなんだと思いました。
- 体験したことについて、もっと調べたいと思った。

★参加児童の様子



★学生サポーターの主な感想・意見

- 自分は子どもたちにほとんどアドバイスをしていないのに、子ども同士でしっかり話し合いをして高いタワーを作ったチームがあったことに驚きました。

★学生サポーター活動の様子



★保全公社スタッフの感想・意見

- あえて児童だけのチームで大人でも難しい課題に挑戦してもらうという企画には不安がありましたが、実施してみると初めて会った児童同士がしっかり話し合い、協力をしながら作業を進める姿を見てこの企画は成功だったと思いました。
- サポート役スタッフにはできるだけ助言をしないように心がけたことで、児童は大人に頼ることなく、自分たちの知識、経験を出し合い、こちらの想定を超える作品を作り上げたチームもありました。
- 途中までうまくいっていなかったにも関わらず、最後まであきらめずに試行錯誤を続けて逆転優勝したチームもあり児童たちの持つ可能性を感じました。

★保全公社スタッフ活動の様子



No.28 「情報の森」冒険の心得を取材し、新聞にしよう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	ニュースパーク（日本新聞博物館）
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 2回ずつ計4回実施
実施会場	ニュースパーク館内ならびに2階イベントルーム
参加児童数/保護者同伴数	61人/61人（このほか同伴の子が5人）
プログラム内容 ※体験したことを記載 （150字程度）	ニュースパーク（新聞博物館）で「情報の森」を冒険するのに必要なころえ（情報リテラシーに関する展示）を取材し、その結果を記事にまとめた新聞をパソコンで作成した。元新聞記者が取材の仕方や記事のまとめ方・見出しのつけ方などをレクチャーした。

★参加児童の主な感想・意見

- ・自分だけの新聞を作ることができて楽しかった
- ・新聞の作り方の順番を知ることができて良かった
- ・パソコンでローマ字を打つのが少し楽しかった
- ・新聞を作るのが難しかった
- ・完成度の高い新聞を書いて良かった
- ・本当に新聞記者になれたような気持ちでした
- ・新聞はこんなに大変なことをやってくれる人がいるからできていると知ることができた
- ・新聞記者は取材をし、原稿も書くから大変だと思った
- ・新聞をじっくり読む機会を作って読みたいと思った
- ・新聞を書くのは大変だったけれど、出来上がった後はよかった
- ・記者になって新聞を作るのは楽しかった
- ・データではなく、紙になったところが特にうれしかった
- ・パソコンが打てるようになった

参加児童の写真①



「情報の森」展示を取材している様子

参加児童の写真②



パソコンで新聞を作成する様子

参加児童の写真③



完成した新聞を親子で眺めている様子

参加児童の写真④

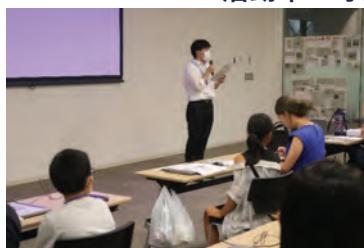


振り返り会で発言する様子

★学生サポーターの主な感想・意見

今回のイベントに関わることで新しい経験をすることができました。力不足を感じる場面もありましたが、実際にこのような形で関わることができたことをうれしく思います。

学生サポーター 活動中の写真



振り返り会を司会する様子

★企業・団体等の感想・意見

「子どもアドベンチャーカレッジ」として今回の形のプログラムを組んで2年目となり、子供たちや保護者の感想から手ごたえを感じました。

ニュースパーク（日本新聞博物館）は、「情報と新聞」の博物館として現在、情報リテラシーをテーマにした展示に力を入れています。新聞記者になって取材や新聞づくりを体験するプログラムに、取材テーマとして情報リテラシーの展示を設定したことにより、職業体験をしながら自然とプラスアルファの学びも持ち帰ってもらうことができました。保護者の感想でも、情報リテラシーについて言及したものが多くみられます。

当館の場合は、子供向け（親子向け）イベントでは集客に試行錯誤していますが、「子どもアドベンチャーカレッジ」は教育委員会による広報があることから、ほとんどの回で定員に達しており、大変ありがたいです。今後も「子どもアドベンチャーカレッジ」への参加を希望します。



元新聞記者の新聞制作マネージャーが記事の書き方をレクチャーする様子

No.29 食の多様化について。

ホテルシェフと一緒に調理&試食を楽しもう



企業・団体等名	一般社団法人全日本司厨士協会関東総合地方本部神奈川県本部
実施日時・回数	8月17日(木) 10:00~12:00 14:00~16:00 計2回
実施会場	横浜市技能文化会館
参加児童数/保護者同伴数	33人/33人(幼児・未就学児8名) ※1名欠席
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	「食の多様化について」 前半30分講義。ホテルシェフより多様化の要因(アレルギー、ベジタリアン、ビーガン、ハラール/ハラームなど)を説明。またホテルで実際に食の多様化に関わるエピソードを伝えました。後半はベジタリアンメニュー三品(フラワーおにぎり・大豆ミートのパスタ・ヨーグルトゼリー)をシェフと子供たちが実際に調理し、保護者の方も含めて試食していただきました。

★参加児童の主な感想・意見

- ・「食の多様化について」講義も実習も、今の時代らしい内容で、とても勉強になりました
- ・アレルギーについて、自分の体のことをよく知るこの大事さを学ぶよいきっかけになりました
- ・食、料理は、文化や思考、宗教など、本当に幅広いことと繋がりがあり、その多様性に気づく、関心を広げることの大切さを改めて感じました
- ・多様性については、学校で学習する食育とはまた違って良かったです
- ・メニューも、家庭料理には無い、ちょっとおしゃれで感動しました。
料理にさらに興味を持ちました
- ・ビーガン向けの料理は家庭では教える事が出来ないので教えて頂けて良かったです
- ・帰ってさっそくお菓子のパッケージ裏面のアレルギー表示を確認した
- ・いろいろな食べ物が作れて楽しかった

参加児童の写真①



ベジハム(代用肉)をカットしている様子

参加児童の写真②



人参をカットしている様子

フラワーおにぎり作成



野菜カット



試食タイム

★企業・団体等の感想・意見

今回「食の多様化」という少し難しいテーマだったにもかかわらず、講義では子供たちは真剣に耳を傾け、理解をしてくれていました。後日アンケートでも、家庭で多様化について話し合うきっかけになったとの声もいただきました。

調理実習に関しても、限られた時間の中で一生懸命取り組んでくれる姿に、私共も多くの刺激を受けました。子ども対象とはいえ、いい加減な講義や実演は出来ない、今回の反省点もふまえ、より良い内容で次回できれば参加したいと考えております。

一点、弊会の開催が一日のみということもあって、かなりの選外となってしまいました。また当日保護者の方とお話した際に、申し込みから当落連絡まで長く、夏休みの予定が立てにくかったというお声もありました。ちらし配布時期が各学校で差があると思いますので、先着ではなく、例えば7月中旬の1週間など募集時間を短くできるだけ開催日に近くなるよう区切っていただくこともご検討いただくと幸いです。

企業・団体等の活動中の写真



フラワーおにぎりの作り方を教えている様子

No.30 スポーツチームのお仕事を体験してみよう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課（協力：横浜DeNA [®] イスターズ、Y.S.C.C.、横浜FC、横浜F・マリノス、横浜エクセレンス、横浜キヤノンイーグルス）
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 3回ずつ計6回実施
実施会場	横浜市役所1階市民協働スペースAB
参加児童数/保護者同伴数	137人/134人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	スポーツチームのスタッフの皆様を講師に迎え、試合会場の見えないところで行われている仕事、試合以外の場面で行われている仕事など、様々なチームのお仕事についてお話いただき、オリジナルグッズを作成したり、ファンを増やすアイデアを考えたりしてもらいました。

★参加児童の主な感想・意見

- ・スポーツチームのスタッフの人たちがどんな仕事をしているのかを知ることができました。
- ・スタジアムにお客さんを呼ぶイベントや選手としたいことを考えるのは難しかったけど、みんなで話せて楽しかったです。
- ・みんなの前で発表するのは緊張したけど、やってみて良かったです。
- ・スタッフのお仕事だけではなく、競技にも興味を持つことができました。
- ・スポーツチームは、選手だけでなく、色々な職業の人達で構成されていることがわかりました。

★企業・団体等の感想・意見

- ・仕事内容に関する説明が少し難しくなり過ぎたので、座学は徐々に実践に寄ったプログラムを今後検討できればと思います。
- ・実施場所にこだわらないのであれば、実際の試合会場が見れたり、「バックステージ」でのお仕事体験ができると、お子さまにとってはイメージがしやすいのかなと感じました。
- ・プロサッカー選手という夢を掴むまでの話、そして引退後クラブスタッフとして携わっている広報の仕事がどのような仕事なのか、新聞づくりを通じて伝えることのできた貴重な機会となりました。
- ・みんなで作った新聞はポイントを押さえた素晴らしい出来栄で、子どもたちにとっても私たちにとっても充実した時間になったと感じています。



Y.S.C.C.のスタッフさんのお仕事について学ぶ様子



横浜キャノンイーグルスのグッズの作り方を聞く様子



横浜FCの講師の方に関する新聞を作成する様子



グループで作成した新聞を発表する様子



横浜DeNAベイスターズのファンを増やす方法を考える様子



グループで考えたファンを増やす方法を発表する様子



横浜エクセレンスの応援グッズを作成する様子



横浜F・マリノスのプログラム様子

No.31

税金を知ろう！～税金謎解きゲーム～

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市租税教育推進協議会
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 2回ずつ計4回実施
実施会場	横浜市役所 1階 アトリウム
参加児童数/保護者同伴数	37人/37人（未就学児童含む）
プログラム内容 ※体験したことを記載 （150字程度）	クイズや謎解きを10問解きます。 答えにちなんだ、税金の種類や、内容、使いみちなどを解説し、自分たちの生活に身近なものであることを伝えました。 また、1億円のレプリカを展示し、記念撮影や、お金の重さを体験してもらいました。

◆◆当日の様子◆◆



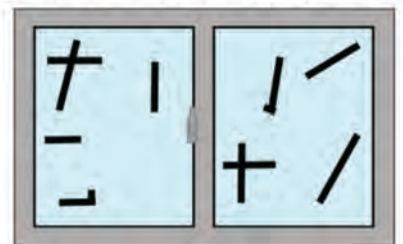
お友達と一緒に謎解きに挑戦！

大人でも難しい



◆◆問題の一例◆◆

問題3
窓をあけると出てくる文字は？



★参加児童の主な感想・意見

- ・問題3（窓の問題）が難しかった。
- ・消費税は普段から知っているものだった。
- ・お父さんがタバコを吸っているの、タバコ税が印象に残った。
- ・最初は解けなかった問題も、よく考えたら、最後には解けたから良かった。
- ・学校にたくさんの税金が使われていると知ったので、大切にしようと思った。



問題5 なんて読む？

*答えは次のスライドに



問題6 なにがでてるかな？

8月	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29
30	31				

百一一

*答えは次のスライドに

学生サポーターさんに
ヒントを聞いてみよう！

◆◆振り返りインタビューの様子◆◆



★学生サポーター Sさんの感想

今回は、クイズを解いた上で税金を学ぶイベントでしたが、子ども達の学年や理解度に合わせて、適度なヒントを考えるのが特に難しかったです。しかしながら、多くの子供達と楽しく交流でき、良い経験になりました。また最後の振り返り会では、子ども達から積極的に感想を發表してもらえようようにすることが今後の課題だと思いました。今回、市役所の方と一緒にイベント運営に関わらせていただき、市役所の職場の雰囲気を感じられる貴重な体験ができました。このイベントでの体験を今後の学生生活や将来の仕事に繋げていきたいと思ひます。

問題3の答えは・・・

答え カイモノ(買い物)

※窓を重ねると、カタカナの「カイモノ」の文字が現れる。

買い物をする時には、「消費税」という税金がかかります。

問題5の答えは・・・

答え たばこ

※四角に「バス」・「バス」「コーヒー」を当てはめて赤字をぬくと「タバコ」になる。

たばこにかかる税金として「たばこ税」というものがあります。お店で売っているたばこの金額にはたばこ税が含まれています。たばこ税には、国に納めるもの・県に納めるもの・市に納めるものがあります。

★団体の感想

「税金は、小学生のみなさんにとっても身近なところで使われている」ということを感じ取ってもらえるような謎解きと解説を考えるのは大変でしたが、非常にやりがいがありました。税金というと難しいもののように聞こえますが、少しでも興味を持ってもらえるきっかけを提供できていれば嬉しく思ひます。また、今回のイベントは小学生向けでしたが、謎解きの解説を行っている間、付き添い保護者の皆様も聞きながら聞いてくださっていたのも印象に残りました。



開始前のルール説明



この問題解けたかな？

ヒントタイム！



問題6の答えは・・・

(左側) 温
カレンダーの日曜日・お皿
(右側) 泉
百から一をひく・水

答え おんせん

温泉

温泉に入る時にかかる税金として「入湯税」というものがあります。旅館や温泉施設などの入湯料の中には、入湯税が含まれている場合があります(横浜市では、1人あたり1日に100円。)

No.3 2 脱炭素社会実現に役立つバイオマス 発電所の仕組みを学ぼう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	三菱重工パワーインダストリー株式会社
実施日時・回数	8月16日（水）午前・午後1回ずつ計2回実施
実施会場	三菱重工パワーインダストリー株式会社 本牧地区内CSプロモーションセンター
参加児童数/保護者同伴数	15人/0人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に欠かせない電気をつくる発電所の仕組みと、発電方式の一つであるバイオマス発電所がどうして地球に優しいのかを、講師からの説明で学習。 ・センター内に設置されている、実際に発電所で使われていたボイラーやタービンの実物、経年劣化して破損してしまった部品の実物を見学。 ・「こんな発電が出来たらいいな」をテーマにグループワークを行い、個人毎に皆の前で発表。また、プログラムの感想も一人ずつ発表。

★参加児童の主な感想・意見

- ・バイオマス発電の構造や、なぜ環境配慮になるのかなど、今まであまり知らなかった事について学べて良かった。
- ・バイオマス発電の話聞いて、ゴミ類で発電できると知ってビックリしたし、ゴミの量を減らせるからいい発電方法だなと思った。
- ・バイオマス発電をしてもCO₂が増えない理由が分かり、この発電はいいと思った。
- ・今日、知ることがいっぱいあったので頭に入らなかったものもあるから、家に帰ったら復習したいと思う。
- ・ボイラとかタービンとか教科書ではみたことあるけど、本物はあまり見る事がないから、見られて良かった。まさかこんなに大きくて重いものとは思わなかった。
- ・発電所では一つでも機械が壊れたら爆発したりしてしまうことを知り、発電所で働いている人はすばらしいと思った。
- ・これからは電気を大切に使いたい。
- ・もし自分がどこかの市長になったら「エネルギーの地産地消を目指す」と言いたい。

参加児童の写真①



グループワークをする様子

参加児童の写真②



新しい発電方法を考えている様子

参加児童の写真③



プログラムの感想を
真剣に書いている様子

学生サポーター 活動中の写真



子どものアイデアの発
表を聞く様子

★学生サポーターの主な感想・意見

参加して気付いたことは2つあります。1つ目は、今の小学生の教育の多様性です。この種のプログラムに参加することも宿題の一つになっていることを子供から聞き、自分が小学生の頃よりも、宿題の出し方などにおいて選択肢が広がっていると感じました。

2つ目は、企業の方のプレゼンを聞いての気付きで、プレゼンでの知識量の重要さです。時間調整のために参加者を巻き込んでの発表や、質疑応答を確実にするための準備と知識に圧倒されました。今後大学でプレゼンなども多くなると思うので、この気づきを生かして、どんな展開になっても対応できるような知識を蓄えておきたいです。

今回、実際に企業で働いている大人の方と関わること自体が初めてだったので、知らない環境に入ることには不安な気持ちがありましたが、小学生の子たちの、楽しかったという感想を聞くことが出来て、うまくやり遂げることが出来たのだなととても安心しました。最初に個人目標として「楽しいと全員が思えることを考える」という事をあげていたのですが、もしかしたら達成できたかもしれないと感じました。力不足だったかもしれませんが、リードしてくださった企業の皆さんのおかげでとても良い経験になりました。思い切って応募してみて良かったです。ありがとうございました。

★企業・団体等の感想・意見

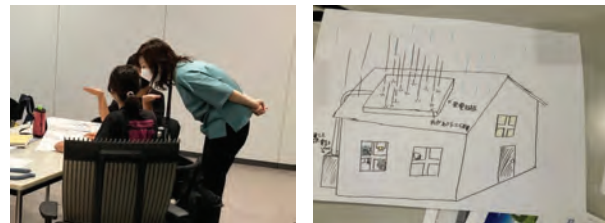
- ・ バイオマスそのものや、バイオマス発電の仕組み、またこの発電方式がどうして脱炭素になるかなどは、小学5 & 6年生には難解なテーマかと考えていたが、子供達がしっかりと理解してくれたことに感心した。
- ・ 座学だけでなく、ボイラーやタービンの実物が見られたことに強く感動する子供が殆どだったことから、実物を見せる事の重要性にあらためて気づいた。
- ・ グループワークでは、新しい発電方法を考えて貰ったが、大人が想像しないユニークなアイデアも多く出て、子供の豊かな発想力を再認識した。
- ・ この種のテーマに興味関心をもつ子供が一定数いることに将来への期待が持てることを実感した。
- ・ 学生サポーターとは数回にわたって打ち合わせをしたので、受け入れ側としては非常にスムーズに運営できた。
- ・ 更に内容を充実させた上で、次年度以降も是非継続実施したい。

企業・団体等の 活動中の写真



子どもとバイオマス発
電について話し合いを
する様子

企業・団体等の 活動中の写真



子どもと新しい発電方法について話し合いをする様子と
出てきたアイデアの一つ

No.33 地名からまちを探ろう！ - もし地震や火災が起きたらどうする？ -

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

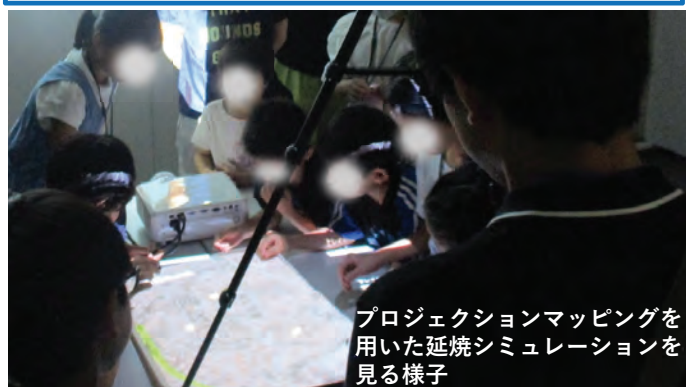
企業・団体等名	横浜市都市整備局防災まちづくり推進課
実施日時・回数	8月16日（水）9時～12時
実施会場	市庁舎17階会議室
参加児童数/保護者同伴数	11人（3年生：5人、4年生：6人）/10人
プログラム内容 ※体験したことを記載 （150字程度）	<p>第1部（講義・シミュレーション・ディスカッション） 地名の由来からまちの歴史や土地の状況を学び、まちの持つ魅力や弱点を考え、災害リスク（特に地震火災）や効果的な防災行動は何かを話し合う。</p> <p>第2部（WS・発表） 災害発生時に使える防災テクニック「簡易ランタン」を学んだ上で、ペットボトルに自由に絵を描いたり装飾してアート作品を作り、発表する。</p>

★参加児童の主な感想・意見

- ・ 延焼シミュレーションを見て、丘の上や小学校の校庭、広い道路といった高いところ・広いところに逃げると、火災の延焼被害に遭いにくいことが分かった。
- ・ 小さい建物が多い地域で火災が起きると、思ったよりもすぐ火が燃え広がってしまうことを知った。
- ・ 帰ったら、家から避難所までのルートを確認してみたいと思った。
- ・ ランタンアートは綺麗だったけど、濃い色で描かないと綺麗に映らなくて、少し難しかった。
- ・ 家に帰ってからもランタンを作りたい。



ディスカッションをする様子



プロジェクションマッピングを用いた延焼シミュレーションを見る様子



簡易ランタンでアート作品を作成する様子



部屋を暗くしてランタンアートを披露する様子



作品を皆の前で紹介する様子

★学生サポーターの主な感想・意見

- ・人前で発表する経験は、今後の就職の面接やプレゼン等で知らない人の前で発言する際に生かしていく。
- ・内容を自分の中で事前に整理したことで、当日は緊張せず、かみ砕いた表現で、子どもに正しく分かりやすく伝えることができた。
- ・興味がある公務員について、実際に働いている現場を見て関わる事ができて、就職に対してのモチベーションが上がった。



学生サポーターが説明する様子

★企業・団体等の感想・意見

- ・子どもたちは想像以上に防災に関する知識を持っていて、考えるきっかけ・ヒントを少し与えるだけで、沢山の考えを引き出すことができた。
→身近なものから話を展開させることで、関心・理解度が向上するため、今後当課で子ども向けに周知・啓発をする際も、同様の説明方法が有効だと感じた。
- ・シミュレーションやディスカッション、WSなど様々なツールや説明方法を織り交ぜることで、子どもたちを飽きさせることなく、プログラムの遂行ができた。
→誰でも分かりやすいツールを複数持つことで、それらを組み合わせたプログラムが何通りも構築でき、当課事業の推進に繋がる。
今後も新たなツール作成を検討していきたい。
- ・子どもをきっかけにして、同伴している大人（家族）にも当課の取組（地震火災対策）の周知ができ、関心を持ってもらえた。
→日頃から周知啓発しにくいと課題感を当課で持っている子育て世代に、間接的に事業周知ができる良い機会であることを改めて実感した。



講義をする様子



WSをサポートする様子

No. 3 4 夏休み子ども貿易教室

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	公益社団法人 横浜貿易協会
実施日時・回数	8月17日（木） 計1回実施
実施会場	本牧ふ頭コンテナターミナル
参加児童数/保護者同伴数	15人/15人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<p>授業「貿易のはたらきと横浜港を知ろう」 港湾施設の見学（随時スタッフが説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理棟からコンテナターミナル全体を眺める ・岸壁でコンテナ船などの見学 ・倉庫内の見学 ・コンテナ体験 ・空のコンテナの中に入ってみる ・シーリング作業

★参加児童の主な感想・意見

- ・楽しかった。
- ・学校の授業では習っていないことだったので勉強になった。
- ・コンテナが大きくてびっくりした。
- ・コンテナの中の構造を知ることができてよかった。
- ・いままで知らなかった会社（埠頭を案内いただいた山九株式会社様）の存在、仕事を知ることができてよかった。
- ・暑い中、ガントリークレーンの仕事などが大変そうだった。
- ・ガントリークレーンが大きかったので驚いた。
- ・授業では紙に書いたり、コンテナの中に入ったりする体験ができてよかった。

参加児童の写真①



ガントリークレーンを見上げる参加児童たち

参加児童の写真②



貿易についての授業を受ける様子

参加児童の写真③



コンテナの中に入って
見学

参加児童の写真④



管理棟からコンテナ
ヤードを見学

★企業・団体等の感想・意見

- ・台風の影響なく、晴天の中で開催することができた。
- ・授業ではワークシートを使い、講師と話し、考えながら授業を熱心に受ける姿が印象的だった。
- ・参加者は管理棟から見えるコンテナヤードを写真にとったりしていた。職員や社員に質問も積極的に行っていた。
- ・ガントリークレーンの大きさに驚いたり、倉庫でのコンテナの作業の説明を真剣に聞き入っていた。
- ・参加家族が熱心に授業や説明を聞くため、企業、団体側としてもその思いに応えようとする、とてもよい体験学習の形が形成できた。

企業・団体等の活動中の写真



山九の社員がコンテナについて説明をする様子

企業・団体等の活動中の写真



日本貿易会の職員の方が授業をする様子

No.35 まち探検ヘレッツゴー！～自分だけのガイドマップをつくろう～

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市都市整備局景観調整課
実施日時・回数	8月16日（水） 計1回実施
実施会場	横浜市役所18階 共用会議室みなと6・7
参加児童数/保護者同伴数	8人/8人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	集合場所のJR桜木町駅前を出発し、まちの中で「面白いな!」「ステキだな♪」と感じた「まちのお気に入り」を撮影しながらゴールの横浜市役所を目指す『まち探検』を実施しました。 その後、自分で撮影した「写真シール」と、景観を構成する要素を集めた「景観のキーワードシール」を使いながら、地図上にお気に入りの理由をまとめる『ガイドマップづくり』を実施しました。

当日の様子（まち探検）

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023



日本丸メモリアルパークから写真を撮る子どもたち



まち探検のゴール 横浜市役所に到着しました

★参加児童の主な感想・意見

- 桜木町の良さを知ってもらうために海や大きなたてもものにこだわった。
- まち探検やガイドマップづくりでまちのことをもっとよく知れた。

当日の様子 (ガイドマップづくり)



地図上でお気に入りの理由を形にしていきます



完成したガイドマップを持って記念撮影

★参加児童の主な感想・意見

- ガイドマップをつくってみて楽しかった。うまくできてよかった。
- 今度は自分の家のまわりのガイドマップをつくろうと思う。

プログラムを終えての感想



景観を構成する要素についてレクチャーする様子

★横浜市都市整備局景観調整課

- イメージしていたよりも様々なパターンのガイドマップが完成し、子どもたちの発想力に驚かされた。
- 自らの業務においても、これまで以上に柔軟な発想で横浜の未来の景観について考えていきたい。

No.36 横浜市の友好交流自治体 道志村と昭和村を体験だ！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市政策局広域行政課、横浜市水道局広報課、山梨県道志村、群馬県昭和村
実施日時・回数	8月16日（水）午前1回、午後1回計2回実施
実施会場	横浜市役所アトリウム
参加児童数/保護者同伴数	28人/28人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<昭和村>昭和村の紹介、リモート農業体験 <道志村>水源涵養林実験、道志村の紹介、間伐材を使ったパズル

★参加児童の主な感想・意見

- ・一日にトウモロコシを千本取れるなんてすごいと思った。
- ・道志村は、温泉や釣りに行ったことがあったけど、まだまだ知らない魅力があることが分かった。
- ・道志村は、学校で校外学習で行ったけどさらに知ることができた。
- ・パズルが楽しかった。難しかったけど楽しかった。木のパズルが道志村の木からできていることに驚いた。
- ・（崎陽軒の）お弁当の箱に木の素材が使われていることを初めて知った。
- ・環境に気を付けたもの（製品）がある。自然からいろいろなものが作られていることを知った。
- ・蚕の話が勉強になった。繭が綺麗だった。
- ・涵養林の水の実験が面白かった。
- ・道の駅めぐりしたいと思った。
- ・それぞれの村の人から話を聞いて、想いを知ることができた。



<昭和村>リモート農業体験



<道志村>水源涵養林の実験



<道志村>間伐材を使ったパズル



振り返り会

★学生サポーターの主な感想・意見

- ・感想：自身の自治体である横浜市の事業に関わって非常に貴重な経験となった。楽しく参加できて、学生サポーターに応募してよかったと心から思った。
- ・気づいた点：進行を行う上での考慮することの多さに気づきがあった。多くのことに意識を向けなければいけないことを実感した。
- ・今度この経験をどう生かそうと思うか：今回の経験を通し、進行を滞りなく行うことの難しさを認識した。この経験から、入念な準備だけではなく、当日のイレギュラーな状況への対処方法まで考えておく必要性を学び、生かしたいと思った。



パズルの様子を見ているところ



振り返り会

★企業・団体等の感想・意見

- ・リモート農業にはまだまだ課題がたくさんあるが、実際の畑を子どもたちに体験して貰うことは大変貴重なため可能な限り継続して実施したい。
- ・涵養林の実験及びパズル遊びは楽しく学びながら参加することができるため、子ども達の満足度が高く感じた。
- ・道志村と昭和村を多くの方に知ってもらう良い機会となった。これをきっかけに多くの方に訪れてもらいたい。
- ・学生サポーターに参加してもらえて本当に良かった。



<政策局>友好交流の話



<水道局>水源涵養林の実験と話

No.37 コールセンターお仕事体験！ もしも自動車事故がおきたら？

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 2回ずつ計4回実施
実施会場	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 横浜あんしんサポートセンター 研修室、会議室
参加児童数/保護者同伴数	35人/34人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受信体験前に「コミュニケーターのマナー」を説明。発生練習、電話対応の第一声を練習。 2. プロジェクターを用い社員がお客様とコミュニケーター役でデモンストレーション。 3. 事故受付端末を使用し受信体験。 4. 学生サポーター主催の振り返りの会。

★参加児童の主な感想・意見

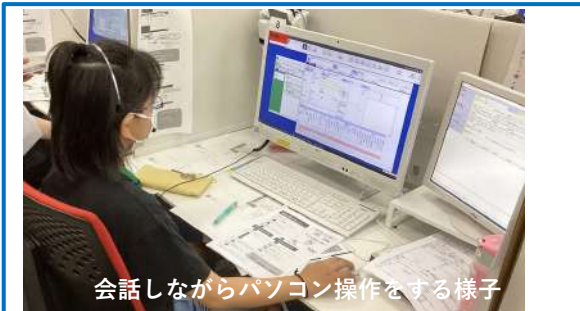
- ・電話の対応は難しかったけれど、慣れてくると対応の仕方が分かって楽しくなった。電話対応が難しかった時、優しく教えてくれて、そのお陰で電話の仕事の事がよく知れた。
- ・初めてコールセンターで電話をして、もしもの時にあんな風に話してくれたら安心できていいなと思った。
- ・コールセンターはどんな所かよく分かりました。
- ・このお仕事体験をしたお陰で、ローマ字がもっと分かるようになった気がする。
- ・私はパソコン操作が好きで、電話対応やパソコン操作ができてとても楽しかったです。印刷した紙を見るのも楽しかったです。
- ・事故受付票を書いたり打ったりするのが面白かった。それに事故受付票をもっといい事故受付票にするために、メモを取ったりしたのが楽しかった。
- ・なかなかつけないヘッドフォンをつけて電話対応するのがちょっと難しかったけど、楽しかった。
- ・お兄さんやお姉さんと電話をするのが楽しかった。キーボードで文字を打つのが難しかった。所長さんに「相手を気遣ってあげる事が大切」と教えてもらいました。勉強になりました。



電話終了後の入力の様子



親子で電話対応する様子



会話しながらパソコン操作をする様子



スクリプトをみながら受信の様子

★学生サポーターの主な感想・意見

- ・子どもたちにとっても、私にとっても非常に貴重な経験ができてうれしかったです。
- ・コールセンターや保険会社というものに関わりがなく、また10人前後の子どもたちを相手に活動することがはじめてであり、私自身とても緊張していました。しかしみなさまに暖かく迎えていただき緊張をほぐすことができました。活動中の子どもたちの様子をみていると、はじめは緊張していましたが、次第に緊張がほぐれ“楽しかった”、“面白い”という表情が現われてきました。



振り返りの会

★企業・団体等の感想・意見

- ・業務中は地域の皆様と直接ふれ合う事がありませんが、子どもアドベンチャーカレッジに参加させていただき、地域の皆様とふれあい、地域貢献に対する意識が高まりました。参加された子ども達からは「また来たい」「勉強になった」「優しく教えてもらった。ここで働きたいと思いました」等の意見、保護者の方々からも「子どもが学べる良い機会だった」との感想をいただき、子どもアドベンチャーカレッジの事業趣旨に則ったプログラムを実施できたと思います。今後もこの活動に参加させていただきたいと考えております。



事故受付センターについて説明する様子



発声練習をする様子

No.38 「つかう」ことで森林を守ろう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市国際局国際協力課、国際熱帯木材機関(ITTO)
実施日時・回数	8月16日(水) 計2回実施
実施会場	横浜国際協力センター6階 Y-PORTセンター公民連携オフィス「GALERIO(ガレリオ)」
参加児童数/保護者同伴数	21人/23人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ◆アイスブレイク ◆紙コップを使った食物連鎖のワークショップ(横浜市環境創造局) ◆森林の重要性とその現状についての講話(国際熱帯木材機関) ◆ITTOが行ったプロジェクトの紹介(国際熱帯木材機関) ◆学んだ内容を受け、グループワークをして発表するふりかえり会 ◆ITTOのオフィスツアー(国際熱帯木材機関)

★参加児童の主な感想・意見

- ・森林がなんで大切なのか、どうやって守るべきなのかがよくわかった。まだ森林について知らない人に伝えたいと思った。
- ・自分の将来の夢はカメラマンであるが、今日学んだことを生かして、森林の現状を伝えたいと思った。
- ・木が二酸化炭素を吸収してくれていることを知り、木を傷つけないで大切にしていかなければと思った。
- ・まだ使えるものは使う。森林を守るためにできることをしたいと思った。チュンパカの森を大事にして欲しいと思った。
- ・森林を「つかわない」ではなくて「つかう」ことで守ることができることがわかった。
- ・グループで考えたので色々な意見を知ることができた。
- ・体験(ワークショップ)もあり、説明もわかりやすく楽しかった。



会場の様子



紙コップを組み立てて生きもののつながりを考えます



アイスブレイキングセッション&ふりかえり会

★学生サポーターの主な感想・意見

今回子供たちと一緒に木という資源を有効的に使うことを学ぶことが出来ました。子供たちがクイズも振り返り会も含め積極的に参加してくれたことで私が資源の有効的な使い方を学ばせて貰えたいい機会になりました。今回の経験を活かして資源を有効的に使う、また前で発表する時は分かりやすい言葉をより自分で考えながら適宜対応できるように頑張りたいです。



国際機関ITTOのオフィスを訪れてみよう！

★企業・団体等の感想・意見

小学生にとっては難易度の高いテーマであったにも関わらず、森林についての興味が深まったという声が多数寄せられた。ワークショップやふりかえり会では参加児童の皆さんが積極的に話し合い、盛り上げてくれた。

横浜市国際局国際協力課

今まで遠くに感じていた熱帯林が、毎日の生活に深く関わっていることを学んでもらえました。「木を使うことが木を守る」というメッセージが伝わる、大事な機会になりました。

国際熱帯木材機関 (ITTO)

ワークショップを通じて、生物多様性を楽しく学んでもらえました。これを機に、日常生活の中で環境を守る行動を進めていただければと思います。

横浜市環境創造局政策課



ITTO職員による講話

環境創造局のワークショップ



No.39 横浜のみどりを守る！生きものレンジャーになろう

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	横浜市環境創造局環境活動支援センター
実施日時・回数	8月17日（木）14時～16時30分 計1回実施
実施会場	環境活動支援センター 実習展示場
参加児童数/保護者同伴数	12人/14人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜のみどりを守るお仕事の種類や活動の紹介 ・児童遊園地内での生きものの生息状況調査 ・昨年度作ったそだ柵をどのような生き物が利用しているか調査、観察 ・子どもたちがノコギリで切った集積材によるそだ柵の更新

★参加児童の主な感想・気づいたこと

- ・木を切って生きものすみかを作るのが勉強になった。家でも似たようなことがしたい。
- ・のこギリで木を切るのが楽しかったです。
- ・イベントはすごく楽しかった。環境を守ろうとしている人が多く集まっていました。
- ・横浜市のみどりが少なくなったことに気づきました。
- ・チョウチョは目があまり見えないけど、大切なおいを感じ取っていた。
- ・捕まえた虫は観察が終わったら、捕まえた場所に戻すこと。
- ・もっとすみかを増やして虫にいい環境を作りたいです。

みんなで横浜のみどりを守ろう！



参加児童の写真①



同じ植物の葉っぱを持っている人をおいで探すゲーム

参加児童の写真②



ノコギリで枝を切っている様子

参加児童の写真③



去年つくったそだ柵を観察・昆虫採集する様子

参加児童の写真④

生きもの
レンジャー
宣言をしよう！



今日の活動を振り返って、自然や生きもののために取り組みたいことを宣言する様子

★学生サポーターの感想・意見

- ・母国では、子どもたちが昆虫採集をすることがなかったもので、文化の違いを感じました。
- ・外での活動中、1人の子どもとかかわる方が良いか、全体を見たほうが良いのか、子どもとの距離感に悩む場面がありました。

学生サポーター活動中の写真



振り返りの会で子どもたちの発表を聞く様子

★環境活動支援センター職員の感想・意見

- ・屋外でのプログラムのため、熱中症対策をしっかり行った。
- ・軍手をはめて昆虫採集をしたので、普段は虫に触れなかったという子どもからイベント中は触ることができたという声を聴き、積極的な生きものと触れ合いの場を作れたと実感できた。
- ・振り返りの会で、レンジャー宣言をしてもらうことで、子どもたちに生きものや生息環境を守ることにも関心を持ってもらうことができた。

環境活動支援センター職員の活動中の写真



昆虫を元居た場所に返す児童を見守る様子

そだ柵の変化



そだ柵 2022.8/17



そだ柵 2023.5/16



生きものすみかづくりは
庭に枝や石を積む、花を育て
るところから始められる！

今年完成したそだ柵

どんな生きものが観察できるか楽しみです。

11月頃そだ柵の変化を環境活動支援センターHPで公表します。

No.40 看護やリハビリのお仕事を体験してみよう！

企業・団体等名	昭和大学保健医療学部
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 1回ずつ計2回実施
実施会場	昭和大学横浜キャンパス
参加児童数/保護者同伴数	55人/66人(2日間) 28人/34人（8/16）、27人/32人(8/17)
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	看護師・理学療法士・作業療法士の3つの仕事内容を体験しました。看護師は、保護者の方が患者さん役となり、消毒と包帯を巻きました。また、点滴の滴下の調整を看護師になりきって実施しました。理学療法士は、物理療法という治療で温熱（パラフィン）や電気治療を体験したり、リハビリテーションで理学療法士が行う運動療法を行いました。作業療法士は、手の不自由な方をサポートする自助具の使用体験や装具の作成から患者の不自由さを軽くするサポートの方法を体験しました。

★参加児童・保護者の主な感想・意見

- ・緊張したけど、先生や、学生さんが優しく**楽しくできました**。
- ・思っていた以上に色々と考えてくれていて、3つの体験全てが楽しめました。ありがとうございます。
- ・いろいろな仕事を体験してみて**楽しかったし面白かった**。
- ・知らないことを知れて、**仕事に興味を持ちました！夢が1つ増えました**。
- ・看護師の仕事ができて、まるで私が看護師になった気分になって**とても楽しかったし、勉強にも役立ったと思いました。私も人の役に立てる仕事をしたいと思いました**。
- ・いろいろな体験ができて**楽しかった。どのような仕事なのか知ることができた**。
- ・先生たちも優しく落ち着いてできました。とても**楽しくてまた来たいと思いました**。実際に医療器具を手にとって、体験している**我が子の目が輝いているのを見て、とてもうれしく思いました**。ありがとうございました。
- ・3つの仕事を楽しく体験出来て**楽しかったです**。小学校に通う日常では体験できないことばかりだったので、夏休みのとても**貴重な体験ができました**。お世話になりました。ありがとうございました。
- ・1日ありがとうございました。普段入ることのない大学構内に入り、**貴重な経験をさせていただきました**。普段知ることのない道具や装具に実際触り、使い、あっという間に時間が経ったようです。
- ・**これまで知らなかった理学療法士や作業療法士、これまでの小児科のクリニックで見たことのある看護師さんについてより深く知るいい機会になりました**。いつ病気やけがをするかかわからないですが、優しいスタッフの方々を知ることができてもし何かあっても安心してお世話になれそうです。なかなかできない体験をありがとうございました。



集合写真



最初に大学生が各仕事の説明をしている様子



体験を終えて振り返りを行っている様子



点滴の滴下を調整する様子



消毒をして包帯を巻く様子

看護師



理学療法士



温熱（パラフィン）療法を体験する様子



運動療法を実施する様子



装具を作製する様子



自助具を使って豆をつかむ様子

作業療法士



★教員・大学生の感想・意見

本体験プログラムは、看護師・理学療法士・作業療法士の3つの仕事体験から参加児童に楽しく医療職について興味を持ってもらうようにプログラムを企画しました。

現在医療者は、コロナ禍を経て様々な苦労を重ねています。病院等で仕事をしている看護師・理学療法士・作業療法士の仕事は、医療を支える大切な職業です。そのことを児童に少しでも理解してもらえるように、また楽しく学んでもらえるように、本学教員による企画委員会で何度も検討を重ねました。

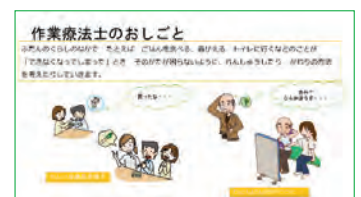
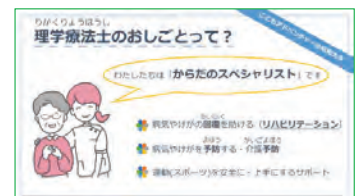
参加している児童の方からは、「楽しかった」「面白かった」「興味をもった」などの感想をもらって大変嬉しく思います。児童の笑顔や楽しそうな会話を聞き、サポートをした大学生のボランティアからも笑顔がこぼれ、大学生にとっても良い経験ができたのではないかと思います。ご参加いただいた児童の皆様、保護者の皆様、ありがとうございました。



ボランティアの大学生



受付・誘導・お仕事体験の説明・振り返り会の運営



受付の様子



大学生が児童に説明している様子

No.41 SDGsを通じてNPOのお仕事を理解しよう！

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	特定非営利活動法人 まちづくりエージェント SIDE BEACH CITY.
実施日時・回数	8月16日（水） 午前10時～12時・午後1時～3時の2回実施
実施会場	特定非営利活動法人 まちづくりエージェント SIDE BEACH CITY.緑区事務所（まちbizみどりセミナールーム）
参加児童数/保護者同伴数	18人/17人
プログラム内容 ※体験したことを記載 （150字程度）	前半はNPO法人の仕事を説明し、続けてSDGsに関する話をしました。休憩を挟んで後半は「SDGs横浜18区パズル（当団体オリジナル）」を各会2グループに分かれて体験してもらい、その後、本日の感想をグループごとに発表しました。

★参加児童の主な感想・意見

- ・SDGsを身近に感じることができた。
- ・パズルをみんなで完成できて嬉しかった。
- ・難しかったけど、色々なことが分かって楽しかった。
- ・パズルは間違えたけど、みんなで協力して出来たことが楽しかった。
- ・学校で習ったことが出てきたんだけど、覚えてなくてちょっと悔しかった。
- ・楽しかったです。

参加児童の写真①



前半の話を聞く様子

参加児童の写真②



パズルをする様子

参加児童の写真③



発表の様子

参加児童の写真④



発表の様子

★企業・団体等の感想・意見

- ・小学3年生にNPOのことを伝えるのは、工夫が必要でした。一回目と二回目で資料を変えるなどして、なんとか伝えることが出来たと思います。
- ・同じくSDGsを伝えるのにも工夫が必要でした。小学生にとって、いかに身近な行動や選択が将来的にSDGsにつながるか？を理解してもらえたと思います。
- ・キャンセルが少しありましたが、結果として参加者はちょうど良い人数になり、一人一人の理解度や満足度は上がったと思います。今回初参加でしたが、適切な人数や時間配分が分かりました。

企業・団体等の活動中の写真



←講座をしている様子

グループワークは子どもたちにヒント出しました。→



←パネルを持って記念写真を撮って欲しい要望がありました。


No.42

めざせ！お箸マイスター 箸を作って、使って、考えよう。

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

企業・団体等名	NPO法人 みんなのお箸プロジェクト
実施日時・回数	8月16日（水）、8月17日（木） 2回ずつ計4回実施
実施会場	16日 泉区 公会堂 会議室・戸塚区 総合庁舎 多目的スペース 17日 栄区 SAKESTA 会議室・港南区 公会堂 会議室
参加児童数/保護者同伴数	16日 泉区 36人/13人・戸塚区 78人/47人 17日 栄区 27人/17人・港南区 18人/10人 計 159人/87人
プログラム内容 ※体験したことを記載 (150字程度)	お箸クイズをしながら箸の文化（歴史・語源・世界の三大食事方法・嫌い箸・箸サイズなど）の学び 自分の手のサイズに合った箸作り体験（ひとあた×1.5） 箸・茶碗の持ち方や取り上げ方の体験

当日の様子



めざせ！お箸マイスター
お箸を 作って 使って 考えよう

名前

学年

(1) この講座を選んだわけ

- ・ お箸を作ってみたかったから
- ・ お箸の持ち方を知りたかったから
- ・ 興にすめられたから
- ・ お箸のことが知りたかった
- ・ 自由研究のため
- ・ その他 ()

(2) お箸deクイズの答え

①

②

③

④

(3) わかったこと もっと知りたいこと


(4) これから、行動できそうなこと

自己評価

☆☆☆☆☆

アンケートのお願い

ご参加ありがとうございました。
ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。





第1問

世界のなかで一番多い食事の方法は？

- 1 お箸
- 2 手
- 3 フォーク・ナイフ

第2問

日本でお箸は、いつ頃から使うようになったのでしょうか？

- 1 恐竜がいた頃
- 2 聖徳太子が活躍した頃
- 3 徳川家康が活躍した頃

第3問

お箸の語源は？

- 1 「ハ」 と 「シ」 の二音の組み合わせ
- 2 神様や人の命が囁くとされている「柱」から
- 3 鳥がくちばしで食物に食べ物をつまむ様子に似ているから

第4問

あなたのお箸の長さは？

1. 15cmくらい
2. 24cmくらい
3. わからない (1でも2でもない)

子供たちが取り組んだワークシート

クイズの問題



手のサイズを測り箸の長さを計算している様子



ノコギリを使って自分サイズに箸をカットしている様子



バーニングペンを使って箸に名入れをしている様子



イベントの感想やこれからできることを発表している様子

参加児童の主な感想・意見

お箸について、知ることができた。
お箸作りが楽しくなった。
他にどんな物でお箸が作れるか知りたくなった。



お箸やお茶碗の持ち方が学べてよかった。
家でも箸置きを使ってみようと思った。



自分のお箸のサイズを知ることができた。
名前を入れるのが楽しかった。



お箸が日本の文化ということを知り、
私が毎日使っているお箸のひみつを
学校のお友達や家族にも教えたい
と思った。



事業に参加しての感想・意見

団体内のイベントテーマを、「世界で輝く子どもたちのために、日本の文化を伝える」としました。

参加した子どもたちや保護者の方に箸は単なる食具ではなく、日本の文化として捉えてもらうことができました。

保護者の方からは、「親子共々箸について初めて学びました。」「持ち方を子どもに教えられなくて困っていたので、良い機会でした」等の声も頂きました。
のこぎりやバーニングペンを使うということもあり、メンバー全員が安全管理に努めました。

カリキュラム作成にあたっては、全国に点在するメンバーも関わり、当日は、横浜在住のメンバー全員で運営しました。メンバーのマンパワーの素晴らしさを改めて感じました。

期待していた、学生ボランティアの派遣がなかったため、団体独自で学生ボランティアを募り、11名の学生が集まり、当日子どもたちのグループワークのファシリテーターとして活躍してくれた。

しかし、小さなNPO団体が参加するには、事務作業や費用の負担も多く、今後の参加は、難しいと思いました。



メンバーがノコギリの引き方を指導している様子

V 【参考資料】プログラム一覧（詳細）

No.	会場（区）	実施時間（16日※）	実施時間（17日※）	プログラム	プログラム内容	企業・団体等名称	対象者	定員
1	青葉	13時30分～16時30分	13時30分～16時30分	消防隊員になってみよう！	実際に消防隊員が使っている道具（ホース、空気呼吸器、防火衣など）を使って、消防隊員の活動を体験してみましょう。 起震車（地震を体験する車）体験、ホースを伸ばしてからの放水体験、救急体験もあります。	横浜市青葉消防署	小5～小6	各回15名 計30名
2	青葉	13時～15時	13時～15時	リユースって何？ クルマのパーツを生き返らせて商品にしよう！	3R（リデュース・リユース・リサイクル）のうちの「リユース」についてクイズ形式でお勉強をします。 リユースについて学んだあと、実際にクルマやバイク・自転車のパーツをキレイにして、お店に並べられるようになるまでのお仕事を体験できます。 実際にレースで使用していた車の運転席に座れるかも、！？	株式会社アップガレージグループ	小3～小6	各回20名 計40名
3	旭	—	13時30分～15時30分	地面の下の大迷宮 江戸時代から続く日本の下水道	クイズや実験を交えた下水道のお話と、下水道のロボットで下水道の中を見てみよう	管清工業株式会社 (横浜市中大口径包括JV)	小3～小6	15名
4	泉	13時30分～15時	13時30分～15時	ドキドキ消防救急体験	泉消防署で消防車、救急車を見て、さわって、消防士や救急隊員の話聞いて、命の大切さと守ることの難しさを感じる時間です。	横浜市泉消防署	小5	各回10名 計20名
5	磯子	10時30分～12時	—	「科学」ってなんだ？	意外とひろい？！「科学」の世界を、手を動かしながら体験したり、科学館のお仕事について紹介したりします。	はまぎん こども宇宙科学館	小3～小6	12名
6	磯子	—	12時50分～17時	病院のお仕事体験ツアー	病院というのをイメージしますか？「お医者さん」や「看護師さん」をイメージする人が多いと思いますが、病院にはいろいろな人が働いています。 病院で働いている人からお話を聴き、普段見ることができない場所を見学し、仕事で使っているものを触り、病院のお仕事を学ぶことができます。	横浜市立脳卒中・神経脊髄センター	小5～小6	20名
7	磯子	10時30分～12時	—	「まいぎり」を使って火起こしを体験しよう！	古代の火起こし道具「まいぎり」を使って火の起こし方を体験します。昔の人々がどのように火を得ていたのか学びましょう。	横浜市三殿台考古館	小3～小6	15名
8	神奈川	10時～12時	10時～12時	動物愛護センターのお仕事を学ぼう！	センター職員のお話を聞いて、動物愛護センターのお仕事を楽しく学んでみませんか。クイズやマイクロチップの読み取り体験もできます。	横浜市医療局動物愛護センター	小5～小6	各回50名 計100名
9	金沢	13時～15時	—	元気のヒミツの探し方～大事なサインを見つけよう～	皆さんは、私たちの体からたくさんのお宝のサインが出ているのを知っていますか？ このプログラムでは、実際に病院で使われている道具を用いて、元気のヒミツや大事なサインを見つける方法を学びます。さらに私たちの元気の味方、医療現場で働く人たちの技（わざ）や、とっさの時に元気を取り戻すためのヒミツの方法にも迫る体験ができます。 医療や看護、そして人の体に興味のある皆さん、ぜひご参加ください。お待ちしております。	横浜市立大学医学部看護学科	小3～小6	30名
10	金沢	10時～12時	—	不用になった素材で工作しよう！アップサイクル体験！	日常で目にする「ごみ」のことについて考えてみよう。 「ごみ」の知らなかったことがわかるよ。 不用になったものは全部「ごみ」？ 工作の時間で不用になった素材を使って新しいものを創ることで、「安易にごみにしない」「もったいない」という心を育み、ものづくりの楽しさを体験できます。	武松商事株式会社	小5～小6	10名
11	金沢	—	1回目 10時～12時 2回目 13時30分～15時30分	みんなが捨てたごみはどこへ行くのかな？	ごみ収集の仕事を体験したり、ごみ収集車に乗ってごみ焼却工場の中を探検できます。 また、ごみクレーン運転や機械の修理など、ごみ焼却工場で働くひとたちの仕事も疑似的に体験していただけます。 サイエンス教室では、ごみについての科学的なことを楽しく見て学べます。	横浜市資源循環局金沢工場	小3～6	各回8名 計16名

No.	会場(区)	実施時間(16日※)	実施時間(17日※)	プログラム	プログラム内容	企業・団体等名称	対象者	定員
12	港北	1回目 10時～12時 2回目 14時～16時	—	世の中を便利にするコンピュータのお仕事を学ぼう!	コンピュータがどこで使われているのか、どのように私たちの生活に役立っているのか一緒に考えましょう。 世の中をどんどん便利にする仕事について理解を深めましょう。	株式会社タスクフォース	小3～小6	各回6名 計12名
13	栄	1回目 9時～12時 2回目 14時～17時	1回目 9時～12時 2回目 14時～17時	見て、触って、乗って、車のエネルギーを体感しよう!	工場内のショールーム(屋内)内でガソリンスタンドの地下にあるタンクを見たり、実際のガソリン給油機に触って給油体験をしたり、水素で走る車に乗り(工場内)燃料電池自動車の仕組みを学ぶ。又EV(電気)自動車への充電方法を知る。	株式会社タツノ(横浜工場)	小3～小6	各回20名 計80名
14	都筑	14時～15時30分	14時～15時30分	学芸員と一緒に博物館の裏側を体験しよう!	博物館のウラガワの探検を通して、ミュージアムの役割や学芸員の仕事、横浜の文化財について体験し学びましょう。	横浜市歴史博物館	小3～小6	各回10名 計20名
15	都筑	—	13時～15時	ごみ焼却工場のお仕事を体験しよう!	バスに乗りして普段見ることのできないごみ焼却工場の内部を見学できます。ごみクレーンの操作体験もできます。	横浜市資源循環局都筑工場	小3～小6	40名 (保護者・同伴者も含む)
16	戸塚	—	13時30分～15時30分	石の鑑定会 — 皆さんの持っている石が何か一緒に勉強しましょう。	どこかで拾った石や買った石、もらった石などで名前がわからない、どんな性質の石が知りたいというものがあれば持ってきていただき、その石の名前や性質を講師が鑑定します。また講師が用意する水晶方解石という石を使って簡単な実験をしてその石の勉強をします。	神奈川鉱物研究会	小4～小6	30名
17	戸塚	—	1回目 9時～12時 2回目 13時～16時	子ども薬剤師体験セミナー	白衣を着て本物の機械や道具を使って薬剤師の仕事を体験してみよう!最後に修了証を交付します!	横浜薬科大学	小4～小6	各回15名 計30名
18	戸塚	13時30分～15時30分	—	この夏「なぜ?」に挑む!『子どものための哲学カフェ』	「なぜ勉強をしなきゃいけないの?」「なぜ大人の言うことを聞かなきゃいけないの?」「友だちって?」 こういう疑問の答えって本当にあるのだろうか? 一つの「なぜ」を集まったみんなで真剣に考えてみたい。誰かの意見を聞いているうちに自分の考えが変わったり、何か大きな発見をするかも知れない。 自分の言葉で語り、考えること、それは哲学の始まり。さあ、頭の中の大冒険に出発しよう!	アートの時間	小5～6	10名
19	戸塚	—	10時～12時	「地域に残る伝説」を腹話術で語り伝えよう	子どもからお年寄りまで、誰もが楽しめる腹話術。 気軽にたのしく腹話術を体験してみませんか? パペット人形を使い、プロの腹話術師より、声の出し方、人形の動かし方を学べます。 (腹話術は教育や福祉、地域貢献など様々な機会に活用が期待でき、豊かな可能性が広がります。)	とつこクラブ倶楽部きずな腹話術	小3～小6	20名
20	中	—	1回目 10時30分～12時 2回目 14時～15時30分	アナウンサーと学ぶ!伝わる朗読	3年生国語(下)の中にある、あまきみこ作「ちいちゃんのかげおくり」を題材として取り上げます。 ちいちゃんの気持ち、作者・あまきみこの気持ち、そして読んでいる自分自身の気持ちを、どのように言葉で表現できるか、聞く人にどう伝えられるのか・・・ プロのアナウンサーと考えながら共に挑戦します。	大佛次郎記念館	小4～小6	各回10名 計20名

No.	会場(区)	実施時間(16日※)	実施時間(17日※)	プログラム	プログラム内容	企業・団体等名称	対象者	定員
21	中	1回目 10時～12時 2回目 14時～16時	—	学芸員のお仕事体験をしてみよう!	博物館には三つの大切な役割「保つ」「調べる」「見せる」があります。 今回はその中で「調べる」「見せる」の役割に挑戦! 横浜とも関係がある「青い目の人形」について、人形を前に学芸員からお話を聞いた後、人形について説明する文章を作るお仕事を体験していただきます。	横浜人形の家	小3～小6	各回10名 計20名
22	中	—	1回目 10時～12時 2回目 14時～16時	重ねて発見! ダンボールで横浜のジオラマを作ろう	私たちのまち横浜は、どんな地形になっているのかな? ダンボールを積み重ねて関内周辺のジオラマを作って、地形のとくちょうや歴史、防災のことについて考えてみよう。学校で習う吉田新田のこともよくわかるよ!	一般社団法人 防災ジオラマ推進ネットワーク オフィス	小4～小6	各回12名 計24名
23	中	1回目 10時～11時30分 2回目 14時～15時30分	1回目 10時～11時30分 2回目 14時～15時30分	議事堂探検! 議員を体験!	「自分たちの住んでいる街の大切なことが、どのように決められていると思いますか?」 ★普段入れない議事堂内を特別公開! 動画やクイズを交えて、議会の仕組み、議員の仕事内容をわかりやすく紹介します。プログラムの後半では実際に議員席に座って議員体験ができます。	横浜市会議政局政策調査課	小3～小6	各回40名 計160名
24	中	—	1回目 9時30分～12時 2回目 13時30分～16時	キッズ・マネースクール	本店内の見学、お札の数え方体験等を通じて信用金庫の仕事と役割を学ぼう!	横浜信用金庫	小4～小6	各回20名 計40名
25	中	1回目 10時～11時15分 2回目 13時～14時15分 3回目 14時30分～15時45分	—	建設のお仕事を体験してみよう!	建設工事に関するお仕事について、体験と講話から楽しく学んでもらいます。プログラムを通じて、建設業の大切さや楽しさを知っていただき、理解を深めてもらいます。	一般社団法人横浜建設業協会/ 横浜建設業青年会	小3～小6	各回15名 計45名
26	中	1回目 10時～12時 2回目 13時30分～15時30分	—	子どもアドベンチャーカレッジ2023 ～お金のおもさを感じよう!～	お金の流れ、銀行の役割を知ってもらう職業体験を実施いたします。実際にお金を持って「おもさ」「大切さ」を一緒に学びましょう! 【実施予定内容】 1. お金の歴史、銀行の仕組みについて 2. 本店営業部見学・体験 3. 紙幣の数え方・お小遣い帳の使い方 4. お金のおもさ当てクイズ(本物の一億円のおもさ体験) ※新型コロナウイルス感染拡大状況により、変更となる可能性もございます	株式会社神奈川銀行	小3～小4	各回12名 計24名
27	中	1回目 10時～12時 2回目 14時～16時	1回目 10時～12時 2回目 14時～16時	最高をめざせ! ハーパータワーチャレンジ!	参加者がチームをつくり、知恵と力を合わせて高いタワーを建設するプログラムです。 材料は紙! 詳しいルールは当日発表です。 高いタワーはどうして倒れない? 人間はどうして高いタワーを建てる? そんな疑問が解決できるかも。	公益財団法人横浜市建築保全公社	小3～小6	各回24名 計96名
28	中	1回目 10時～12時 2回目 14時～16時	1回目 10時～12時 2回目 14時～16時	「情報の森」冒険の心得を取材し、新聞にしよう!	ニュースパーク(新聞博物館)で「情報の森」を冒険するのに必要なところを取材し、その結果を記事にまとめた新聞をパソコンで作ります。 元新聞記者が取材の仕方や記事のまとめ方・見出しのつけ方などをレクチャーします。新聞はプレゼント。	ニュースパーク(日本新聞博物館)	小3～小6	各回20名 計80名
29	中	—	1回目 10時～12時 2回目 14時～16時	食の多様化について。 ホテルシェフと一緒に調理&試食を楽しもう	横浜市の有名ホテルシェフから食文化や料理の多様性を学び、簡単に作れて美味しいフラワーおにぎりや、夏に食べたいデザートなど皆と一緒に作るクッキングセミナーを楽しもう! ※調理中は保護者の方は別室に待機いただきます。シェフがお子様の補助をします(写真撮影可)	一般社団法人 全日本司厨士協会 関東総合地方本部 神奈川県本部	小4～小6	各回17名 計34名
30	中	1回目 10時～11時30分 2回目 13時～15時 3回目 15時～17時	1回目 10時～12時 2回目 13時～15時 3回目 15時～17時	スポーツチームのお仕事を体験してみよう!	横浜市には、全国で活躍するトップスポーツチームが13チームあります! 「どうしたらファンを増やせるかな?」「どんな応援グッズが喜ばれるだろう・・・」チームを支えるスタッフの皆さんと一緒に、考えてみましょう!	横浜市にぎわいスポーツ文化局 スポーツ振興課 (協力: 横浜DeNAベイスターズ、 Y.S.C.C.、横浜FC、横浜F・マリノス、 横浜エクセレンス、横浜キヤノンイーグルス)	各回異なります。 ホームページをご参照ください。	各回異なります。 ホームページをご参照ください。

No.	会場(区)	実施時間(16日※)	実施時間(17日※)	プログラム	プログラム内容	企業・団体等名称	対象者	定員
31	中	1回目 10時～11時 2回目 14時～15時	1回目 10時～11時 2回目 14時～15時	税金を知らず！～税金謎解きゲーム～	税金について知っていただくためのクイズなどを用意したブースを出展します。全問正解を目指しながら、楽しく税金を学びましょう。	横浜市租税教育推進協議会	小3～小6	各回15名 計60名
32	中	1回目 9時～12時 2回目 13時30分～16時30分	—	脱炭素社会実現に役立つ バイオマス発電所の仕組みを学ぼう！	社員講師からバイオマス発電プラントの燃料や仕組みについてのお話を聞いて、発電所の仕組みとこの発電方式が脱炭素社会実現にどのように役立つのかを学びましょう。	三菱重工(パワー)インダストリー株式会社	小6	各回30名 計60名
33	中	9時～12時	—	地名からまちを探ろう！ -もし地震や火災が起きたらどうする？-	「横浜ってなんで横浜っていうの？」そんな疑問からまちを探り、魅力や弱点を見つけよう！もし火災が起こった時、まちがどうなるかのシミュレーションも実施します。また、いざというときやキャンプでも使える防災術「簡易ランタン」を使って、自分だけのランタンアートを体験できます。	横浜市都市整備局防災まちづくり推進課	小3～小4	15名
34	中	—	13時～16時30分	夏休み子ども貿易教室	貿易や横浜港について学んだあと、普段は入ることのできない本船頭コンテナターミナルで、港湾施設や荷役作業を見学します。現場の様子はそのときの港や物流の状況によってさまざまですが、コンテナを運ぶガントリークレーンやフォークリフトを間近でみられる可能性大です。	公益社団法人 横浜貿易協会	小4～小6	15名
35	中	9時～11時30分	—	まち探検ヘレツゴー！ ～自分だけのガイドマップをつくらう～	まちを探検しながら「面白いな！」「ステキだな♪」と感じる『まちのお気に入り』を探してみよう！探検中に撮影した写真やシールを使って、自分だけのガイドマップをつくってまいります☆	横浜市都市整備局景観調整課	小3～小6	8名 (要保護者同伴)
36	中	1回目 10時30分～12時 2回目 13時30分～15時	—	横浜市の友好交流自治体 道志村と昭和村を体験だ！	横浜の水源地【道志村】：水を蓄え、水を浄化し、洪水を緩和する水源林の働きについて、実験を通して学びます。更に、重とSDGsのお話や間伐材を使ったパズル遊びも行います。 野菜大国【昭和村】：農家さんとの交流を通して、リアルな農業を学びます。また、昭和村の畑と会場をオンラインでつなぐことで、リモートで農業を体験します。	横浜市政策局広域行政課 横浜市水道局広報課 山梨県道志村 群馬県昭和村	小3～小6	各回20名 計40名
37	西	1回目 10時～12時 2回目 15時～17時	1回目 10時～12時 2回目 15時～17時	コールセンターお仕事体験！ もしも自動車事故がおきたら？	受付コールセンターの本物の電話受付システムとインカムを使って、自動車事故の受付の体験ができます。テレビCMでもおなじみドラマレコ映像を見ながらやってみましょう。簡単なスクリプトを見ながら話をするので、誰でもコミュニケーション気分を味わえます。どんな風に電話がかかってくるのかな。親子で対話しながら、受付を楽しんでね。保険のしくみを分かりやすく学ぶ、お勉強の時間もありますよ。	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	小3～小6	各回10名 計40名
38	西	1回目 10時30分～12時 2回目 14時～15時30分	—	「つかう」ことで森林を守ろう！	みなさんが普段使っている机に使われている本はどこから来ているか知っていますか？もしかしらそれは「熱帯林」から運ばれてきた木かもしれません。その熱帯林が今、減ってきています。未来に熱帯林を残すために働く国際機関の仕事から、木を上手に「つかいながら守る」方法について、一緒に考えてみませんか？	横浜市国際局国際協力課 国際熱帯木材機関 (ITTO)	小4～6	各回20名 計40名
39	保土ヶ谷	—	14時～16時30分	横浜のみどりを守る！生きものレンジャーになろう	身近な生きものやそのすみかを守る方法について、生きものクイズや野外での体験をとおして楽しく学びます。昨年つくったエコスタックの利用状況を調べたり、さらに生きものやすみやすくなる環境をつくったり、「生きものを守るお仕事」を体験しながら、横浜のみどりをもっと豊かにすることについて考えていきます。	横浜市環境創造局環境活動支援センター	小3～小6	15名
40	緑	13時～17時	13時～17時	看護やリハビリのお仕事を体験してみよう！	病院などで使う道具を使って、看護師・理学療法士・作業療法士のお仕事を体験することができます。先生や学生からお話を聞いて、病院の中での役割を学びましょう。	昭和大学保健医療学部	小3～小6	各回30名 計60名
41	緑	1回目 10時～12時 2回目 13時～15時	—	SDGsを通してNPOのお仕事を理解しよう！	SDGs横浜18区パズルを体験して、持続可能な仕事とは？を学び、みんなの住んで地域(横浜)にも興味を持ってもらいます。NPO法人とはどんなお仕事なのか理解し、将来の仕事の選択肢に、多様性を取り入れるきっかけづくりの場を提供します。	特定非営利活動法人 まちづくりエージェント SIDE BEACH CITY.	小3～小6	各回15名 計30名
42	泉、港南 栄、戸塚	1回目 9時30分～11時30分 2回目 13時30分～15時30分	1回目 9時30分～11時30分 2回目 13時30分～15時30分	めざせ！お箸マイスター 箸を作って、使って、考えよう。	和食は世界へ誇る日本の伝統食です。その和食を日常的にいただくために箸は欠かせません。箸は単なる食具ではなく、命を繋ぎそして感謝するための日本の文化として捉えます。世界中の箸にも目を向けながら、日本の箸の語源、歴史から箸のあらゆる意味を学び、自分の手に合う箸のサイズを測り、箸作り体験をします。また、箸を正しく使える持ち方、更に茶碗と箸の持ち方も身に付け、美しい所作で食事をすることを目的とします。	NPO法人 みんなのお箸プロジェクト	小3～小6	1回目 50名 2回目 60名 3回目 45名 4回目 30名 計185名

夏休み体験学習
プログラム

子ども
アドベンチャー
カレッジ
2023

子どもアドベンチャーカレッジ 2023 実施報告書

令和 5 年 11 月発行

横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課

〒231-0005 横浜市中区本町 6 -50-10

電話：045-671-3282 FAX：045-224-5863